A SPECIAL INTERVIEW for the Practicing Guitarists ① ■ 美旋律の暴虐者に見るギター道探求の指針!

Alexi Laiho
CHILDREN OF BODOM
Practice 24/7
The Master of Bodom shows the way How to Reap the Deathlicks!!

烈弾奏法論 〜新世代のリーパー、かく語りき〜

1979年4月8日生まれ…当年24歳にして、新たなギター・シーン開拓者の若手筆頭ポジションに君臨するアレキシ・ライホ。新次元の新感覚で正統派奏法の根幹を継承する"Mr. Reaper"は、如何にして自己のスタイルを確立したのだろうか…?!

インタビュー＆文●福田真己　Masaki Fukuda　撮影●山田晋也　Shinya Yamada

振興著しいユーロ勢力に於いて、頭ひとつ抜き出た存在感を放つアレキシ。'80年代テクニカル・ギター戦国時代を幼少期から実体験して来た世代の、彼は象徴と言ってもいい。アレキシこそ、ギターきらびやかな'80年代の継承者なのである。速さとテクニック…、共に超人的な極みにまで高めてはいるが、「ギター・プレイをスポーツのように捉えている人は多いけど、音楽なんだから、陸上競技のように追い込まれた状態に自分を置くべきではない」という、テクニック崇拝への戒めも心得たそのプレイは、YG読者の良き手本となるはずだ。

尚、以下は、これまでYG本誌及び増刊にて掲載したインタビューを、本書の流れに則して再構成したものである。

経験を積んで行けば いつかはそれに気付く…

YG：ギターを始めた頃、実際にはどういう練習をしていた？　譜面を見て弾くとか、CDを聴いてコピーするとか、色々なやり方があるけど。

アレキシ・ライホ（以下AL）：教本を買った事はあるよ。あと、メタリカのスコア集とか。それを見ながら何時間も無心で弾いてる内に、そのギタリストがアルバムで何をどう弾いているのか、少しずつ分かるようになったのを憶えてる。その後は、好きなアルバムを聴きながらソロのパートを勝手にインプロヴァイズしてみたり…、最初の頃はそんな感じだったね。とにかく一日中弾いていた。

YG：その頃の経験を元に、キッズにアドバイスを1つ贈るとしたら？

AL：ピッキングかな。最初は感覚的に掴みにくいかもしれないけど、手首を柔らかくするって事だね。手首は柔らかく、でもピックをしっかり握ってハードに弦をアタックする…、そんな感じ。

YG：ピッキングは手首のスナップで弾け！とよく言われているけど、アレキシもその方法？

AL：そうだね。ただ、初めは違ってた。ギターの弾き始めは誰もが間違いを犯すと思うんだ。ただただ憧れたギタリストのフレーズを覚えようと必死だから、効果的な弾き方なんて事に頭が回らない。僕も最初の1年はそうだったよ。必然的に、右手と左手が上手く連携しなくてね。バラバラに動くから全く意味のない音ばかりが出ていた。その後しばらく、それでも何とか形になっていたけど、シナジーの2nd（2000年『THE BITCH IS BACK』）を作っていた時かな…、遂にピッキングに関する新しい方法を見付ける必要に迫られたんだ。1から学ばなければならなかった。何故なら、スタジオ入りの直前、右手の内側に炎症を起こしてしまった訳。要するに、過度な負荷が右手に掛かっていたんだね。その症状が出た後は、もっとリラックスして弾く方法を模索したんだけど、スナップによるスタイルを習得する間は試行錯誤だったな。だから、今でも練習はほぼ毎日欠かさないよ。少なくとも1〜2時間は弾いて、テクニックを維持してるんだ。ツアーから戻ると1週間ほどギターを触らない事もあるけど、そんな時は凄い罪悪感に駆られてね。「ピザを食べながらクダらない映画を観ているだけじゃダメだ、時間をもっと有効に使わなくちゃ」なんて気持ちになったり（笑）。プレイの事を考えずにノンビリする時間も必要だけど、なかなかそうはいかないな。こればっかりはギタリストの悲しい性でさ…。

YG：エルボー（肘）の動きでピッキングしていたスタイルを、リスト（手首）のスナップ・スタイルに修正するのって凄く難しいよね？

AL：難しい。昔は、手首が固まるほど凄く力を入れていたんだ。その無駄な力を抜けばいい訳だけど、それだけの事がなかなか出来ない。弦にピックをヒットさせる要領が全く変わるからね。最初は何も分からなかったよ。だから、ゆっくり慣れて行くしか道はなかった。この症状が腕に出た時、医者に言われたんだ、「2週間ギターを弾いてはいけない」とね。あの時は不安で仕方がなかったな。「アルバムを作らなきゃいけないのに2週間もギターが弾けない!?」なんて絶望的になったりして。でも幸運な事に、スナップを身に付けるまで時間はそれほど掛からなかったんだ。だから、この症状が出たのは僕にとって良い事だったと思う。今のスタイルを身に付けてからというもの、総てが簡単に弾けるからさ。昔の方法が間違っていたとは思わないよ。長時間速弾きしたって腕が痛くなる事はなかったから。ただ、目に見えない負担が蓄積されていたんだよね。それがある時点でドカン！

YG：その他にも幾つかの壁を経験したと思うけど、一番重要だった壁は？

AL：コードだね。幾つものコードを憶えるのは難しかった。でも、「ギブ・アップだ！」なんてクサッた事は一度もなかったよ。一日何時間も練習するのは性に合っていたからね。もちろん、それなりに苦労はしたけどさ。まずはEm、Am辺りの簡単なものから入るんだ。そこら辺までは楽勝。でも、それ以上のクレイジーなコードを憶えようとすると、指が巧く曲げられなかったり、人差指のバレーをすると音が出なかったり…、大きな壁は幾つもあった。だけど、諦めようという気持ちは一瞬たりともなかったな。「もっと学びたい」、そういうハングリー精神が旺盛だったし、ギターを勉強するのが好きだったんだ。あの時のコード練習は実際タメになったよ。

YG：ビギナーの興味は派手なソロ・フレーズだと思うけど、それより、最初はコードを憶えた方がいいという事？

AL：いや、それはどうかな。僕も初めはクールなソロに惹かれたから（笑）。誰でもそうだよ。それが自然だと思う。「派手なソロ・フレーズなんて気にしないで」なんて言う気にはなれないな。何を言っても、どうせビギナーの時期は誰かのソロを真似ようとするんだからね…、僕と同じように（笑）。メタリカの曲を覚えたいという人に、「まずリズム・パートを把握してグルーヴを掴め。ソロ・パートの事は忘れろ。それが大事だ」なんて言ったって耳を貸さないだろ？

ビギナーの時はリードを弾くのが醍醐味だし、派手

なテクニックを友達に披露したいものなんだ。もちろん、ギターの最も重要なパートはリズムであり、リフの弾き方さ。経験を積んで行けば、いつかはそれに気付く。でもねェ…、僕だって17歳くらいまで、バッキングの重要性なんて事に興味はなかった。弾こうと思えば弾けたよ。でも、時間を掛けて練習したのはソロであり、スウィープ等のテクニックさ。コードやバッキングは“ギタリストにとって弾かなくてはいけない”ものであって、それ以上でもそれ以下でもなかった。つまり、真剣に取り組むものではなかったんだ。

「大きな壁は幾つもあった。だけど諦めようという気持ちは一瞬たりともなかった。ギターを勉強するのが好きだったんだ」

本当に多くの犠牲を払った結果得たものは最高だった!

YG：ところで、アレキシは音楽学校に通っていたんだよね。

AL：ギターを始めてすぐ、あるレッスンを受けていたんだ。基本的なテクニックを1から教えてもらった。それから音楽学校へ行ったけど、でも、身になっている多くの事は自分で勉強したって感じだね。ヘヴィ・メタル的なテクニック、例えばタッピングなんかは、自分で覚えたんだよ。もちろん、そこで学んだ音楽理論は役に立っているけど。

YG：理論的な勉強も積極的にした方?

AL：今でも勉強してるよ。ギター・レッスンの延長で始めたのが1997年だったかな。ただ、「音楽は理論が総てではない」というのが僕の持論なんだけどね。何がどうなってるのか全然分かっていないのに最高の音楽を作っている人だって大勢いる訳だし。理論は万能ではない。でも、それを理解していればミュージシャン同士、意思の疎通がスムーズになるって事は見逃すべきじゃないと思う。専門用語を知っていれば、うだうだ説明しなくても分かり合えるしね。要するに、理論を知る事は入口であって、そこから先は頭を使わなきゃダメって事なんだよ。僕もコードとか構成とか、理論的に良い事とすべきではない事は把握しているけど、曲を書く時は気に入った音なら躊躇なく採用してしまう。実際、理論的には間違っている事も演ってるよ。でも、自分で好きなら問題ないさ(笑)。

YG：理論的な事って、突き詰めればどこまでも深いでしょ？ 「ロックの世界ではここまで必要」という線引きが難しいと思うんだけど…。

AL：ジャズ・プレイヤー必須のモードまで学ぶ必要はないけど、最低でも基本的なスケールとコード、Keyに関しては知っていなきゃマズいね。Aマイナー・スケールとCメジャー・スケールが同じ延長上に存在している事は知っておくべきだし、例えばEm7というコードの成り立ちも知っておかなきゃならない。この前、ジャズの譜面を見たんだけど、そこにF#メジャーの“69”というコード名が書いてある訳。僕にはそれが何なのかさっぱり分からなくてね。で、ギターの先生に訊いたら、凄く簡単に説明してくれたんだ。F#というコードに“メジャー6th”と“9th”を加えるんだと。コード名に表示されている数字の理屈を知っていれば、簡単なものなんだと思ったよ。

YG：要するに、音楽的な仲間と意思の疎通が出来る程度の理論知識は必要だという事だよね?

AL：そうだと思うよ。仮に音楽学校で何かを学んでも、実践で通用する重要な事は、他のミュージシャンとプレイする中でしか学べない。その際、初歩的レベルであっても、理論が分かっていれば音楽的な意思の疎通が簡単だし、自分が何をしようとしているのか、自分が何を説明しようとしているのか、すぐに“音楽の言葉”で伝えられる訳だよね。

YG：練習に関してだけど、アレキシはメトロノーム、ドラム・マシンを使っている?

AL：基本的には、お気に入りのCDを掛けて、それをバックに弾いてる。その方が楽しいだろ？ でも、メトロノームは今でも使っているよ。そういう時は、ダイナミクスにも気を遣うべきだろうね。例えば、普通の4拍子の場合、最初の音と3番目の音を強めに弾くと、そこにはそれなりのビートが生まれるだろ?僕はある1つの音を他の音より強く弾くように心掛けているよ。その方が弾きやすいし、抑揚が付くから聴き心地も好いんだよ。

YG：もう1つ、ディストーションを掛けない状態で練習するのが効果的だという意見もあるよね。それに関してはどう思う?

AL：僕はディストーションの状態で練習するのが好きなんだ。アンプに繋いでディストーションを掛ければ、その場合ならではの問題に直面するだろ？ それに対処している内に、ノイズを防止しなきゃならないエレクトリックならではの弾き方ってものを無意識に覚えると思う。ノン・ディストーション状態で練習していると、小さな雑音に対して無頓着になってしまうかもしれないって事なんだ。付け加えておくと、フロント(P.U.)の音で練習するのはお勧め出来ないね。フロントはあまりにもスムーズだから、ノイズが全く聴こえない。それに慣れてしまうと、リア(P.U.)に切り換えた途端、失敗を恐れてプレイ出来なくなる事が結構多いんだよ。リア(P.U.)では正確なピッキングが求められるからね。これは僕の実体験さ。

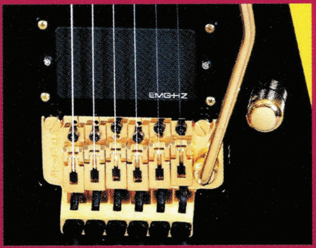
YG：最後に、プロを目指すキッズへメッセージを。

AL：僕自身がアドバイスを貰うべきなんだけど…、本気でプロのギタリストになりたいのなら、かなりの犠牲を払わなくちゃならないんだ。これは肝に銘じておいた方がいいかもしれない。物凄い練習が必要だし、他の事は総て忘れてギターに専念しなきゃならないよ。僕は16歳の時に学校を辞めたし、ガールフレンドと一緒にいる時間よりギターを弾いている時間の方が長いから、幾つかの別れも経験した。本当に多くの犠牲を払ってきたよ。でもその結果、得たものは最高だった！ でもネ、もちろん「学校は辞めろ、女とは別れろ」…なんて言ってる訳じゃないけどさ(笑)。

▲3ピース・メイプルのネックは、ハイ・ポジションの運指性に優れたスルーネック・ジョイント。また、ボディー裏にはコンター加工も施されている。

アレキシ奏法に完全対応した必殺のHM仕様シグネチュア・モデルが登場

◀今夏、遂に発表されたESP製のアレキシ・モデル。アレキシが現在使用しているメイン・ギターである。ただし、本書の掲載写真や特別付録DVD奏法映像(それとは別に当モデルの紹介映像もDVDには収録!)は完成前に撮影されたため、当時の使用モデルを手にしたものとなっている。



▲ピックアップは、EMGが今年発表したパッシヴ・タイプのモデル："HZ"シリーズの"H4"をマウント。ブリッジはオリジナル・フロイドローズ。

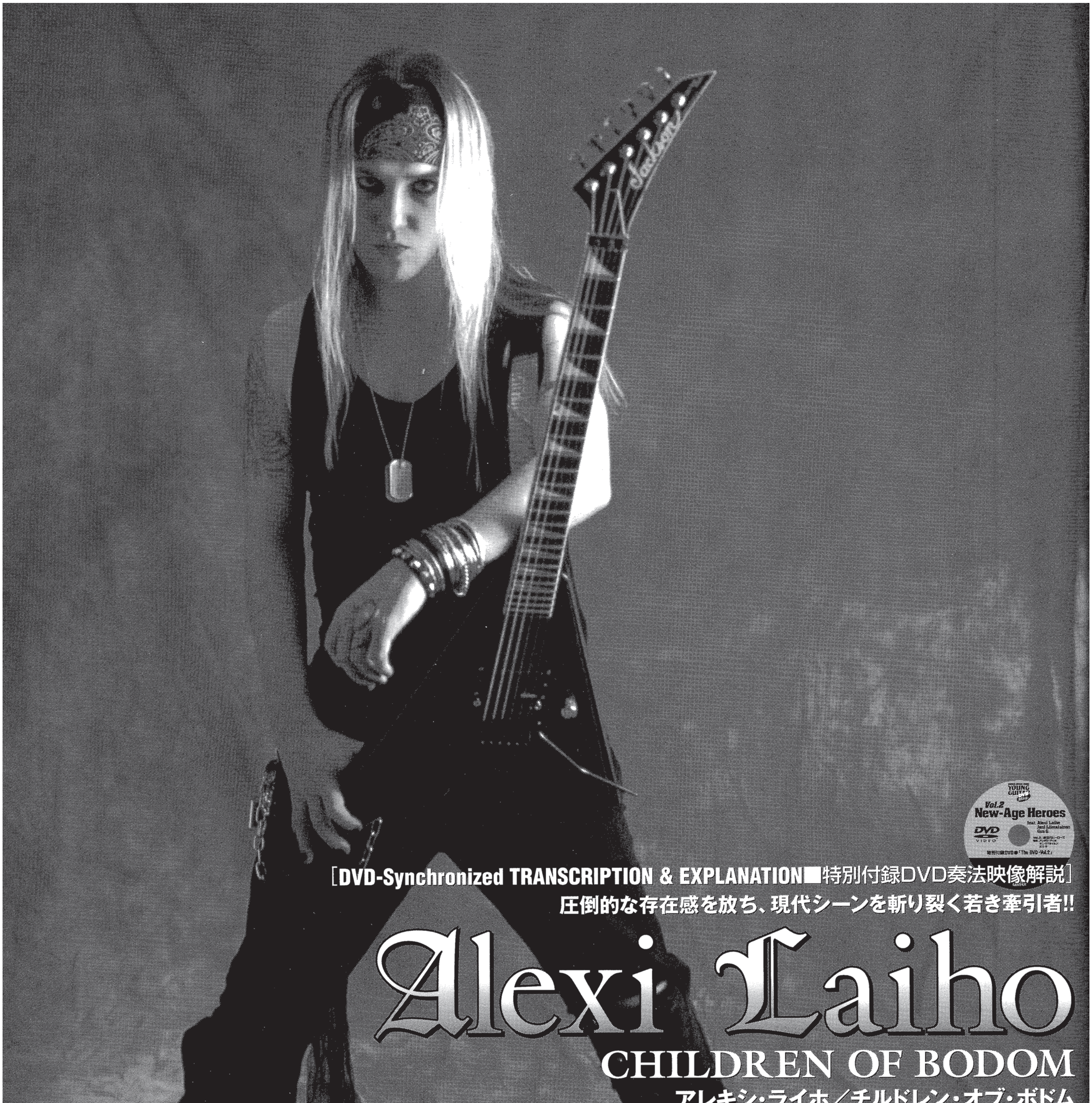
暴虐圧巻のギター・ボドム・ワールド

『HATE CREW DEATHROLL』／CHILDREN OF BODOM

(ユニバーサル インターナショナル CD UICO-1048)

①Needled 24/7 ②Sixpounder ③Chokehold (Cocked 'N' Loaded) ④Bodom Beach Terror ⑤Angels Don't Kill ⑥Triple Corpse Hammerblow ⑦You're Better Off Dead ⑧Lil' Bloodred Ridin' Hood ⑨Hate Crew Deathroll ⑩Silent Scream ⑪Somebody Put Something In My Drink

●アレキシ率いるチルドレン・オブ・ボドムの最新作。更にトリッキー度を増した怒濤のギター・ワークは、次から次へと劇的ハイライトを描き出して行く。まさしく縦横無尽の暴虐ぶりが堪能出来る。



［DVD-Synchronized TRANSCRIPTION & EXPLANATION■特別付録DVD奏法映像解説］

圧倒的な存在感を放ち、現代シーンを斬り裂く若き牽引者!!

Alexi Laiho

CHILDREN OF BODOM

アレキシ・ライホ／チルドレン・オブ・ボドム

Reap N' Roll Licks

〜烈弾！暴虐美旋術〜

YG本誌では昨年10月号の特別付録DVD連動奏法企画に登場し、大反響を巻き起こしたアレキシ。このDVD登場第2弾では、怒濤の如く連射されるトレードマーク・リックを徹底検証して行こう! 今回は取材現場での生映像だけに、アレキシの本領がよりダイレクトに見て取れる…、肝は満載だ!!

解説●福田真己 Masaki Fukuda pix：Shinya Yamada

速さ・リズム変化・プログレッシヴ性…、尋常の域を超えた過激なバッキング技術！ そして、構成美が煌めくソロ!!

「17歳くらいまでバッキングの重要性なんて興味がなかった」(インタビュー参照)とは言うものの、１つの鬼門だった"コード・プレイ"を克服するため、若きアレキシは以後、それ相応の努力をしている。速さは尋常ではなく、リズム変化も激しいチルドレン・オブ・ボドムの楽曲を支えているバッキング技術は、その成果だ。

DVDにはまず、シングル・ノートのEx-1とEx-2を皮切りに**Ex-1～Ex-8**まで、様々なバッキングのパターンが収録されている。映像を観れば分かる通り、バッキングと言えども例外なく黒帯クラスのテクだが、聴き憶えのあるリフもあって楽しめるはずだ。

尚、バッキング・パート＝リズム・パートである。当然、メトロノームやドラム・マシンの類で正確なテンポを流しながら練習するのが常識。

Ex-9～Ex-16は通常のソロ・リックだが、Ex-12～Ex-15はオルタネイト・ピッキングのエクササイズとして特に要チェックだ。ただし、ピッキング練習とは言っても、コードとの関連は耳で知っておくべき。Ex-12ではコード[Em]、Ex-13では[Dm]、Ex-14では[前半＝Bm、後半＝Cm]、Ex-15では[Em]…、これらのコードを一度鳴らして、響きを頭に入れてから弾いた方が(カセット等に録音したコードをバックに弾くのは尚ベター)、フレーズとコードの合致感覚を養う事が出来る。これは大事だ！

そのEx-14、４小節目と８～９小節目で弾いているスキッピング式アルペジオ、そして、**Ex-17～Ex-20**のスウィープ式アルペジオは、今回アレキシがプレイした中でのハイライト。Ex-19のディミニッシュ、Ex-20の６本弦スウィープからタッピング…辺りは、もう異次元レベルと言ってもいい!?

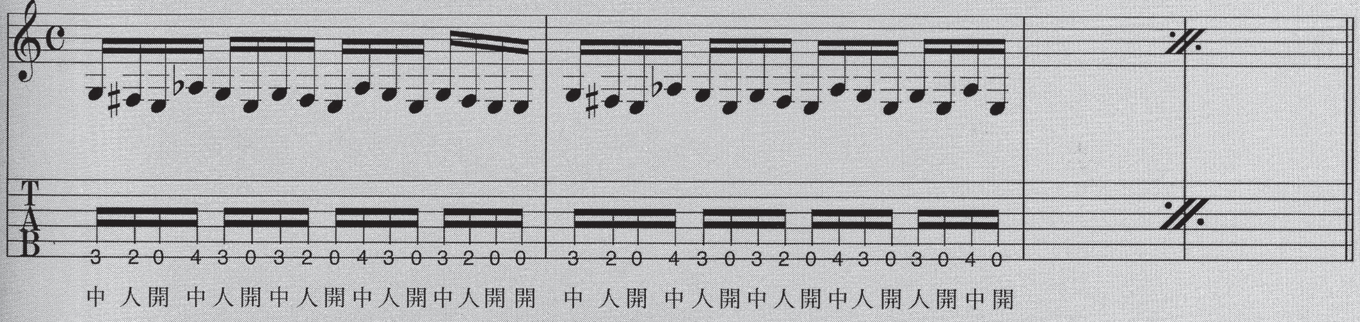
ちなみに、アレキシはスウィープの返し(高音弦側から低音弦側への動き)で、アップ・ピッキングを入れない(つまり左手のフィンガリングだけで音を出して行く)合理派。その特徴が頻繁に登場するEx-19は極めてアレキシ的であり、技術的にもスペシャルなアルペジオという事になる。

最後の**Ex-21～Ex-22**はアーム＋ハーモニクス技の紹介。DVDでは、アーム・ダウン状態での激しいヴィブラート、アームを上にハジく"クリケット奏法"的な揺れ、コードのベンド技…等も披露しているが、最も覚えてほしいのがEx-21に示した通常のハーモニクス・プレイだ。

まず、アームをダウンさせ(弦のテンションを緩める)、ユニット(バネ)の力で元に戻しながら、薬指で12ｆ、９ｆ、７ｆ、５ｆ等(フレット・バーの真上)に触れてハーモニクス音を出す…訳だが、その薬指の一瞬前に、左手人差指で開放状態の３弦を１回１回ハジいている点は見逃すべからず。人差指で弦をハジく…薬指でハーモニクス・ポジションに触れる、この繰り返しをDVD映像で確認したい。

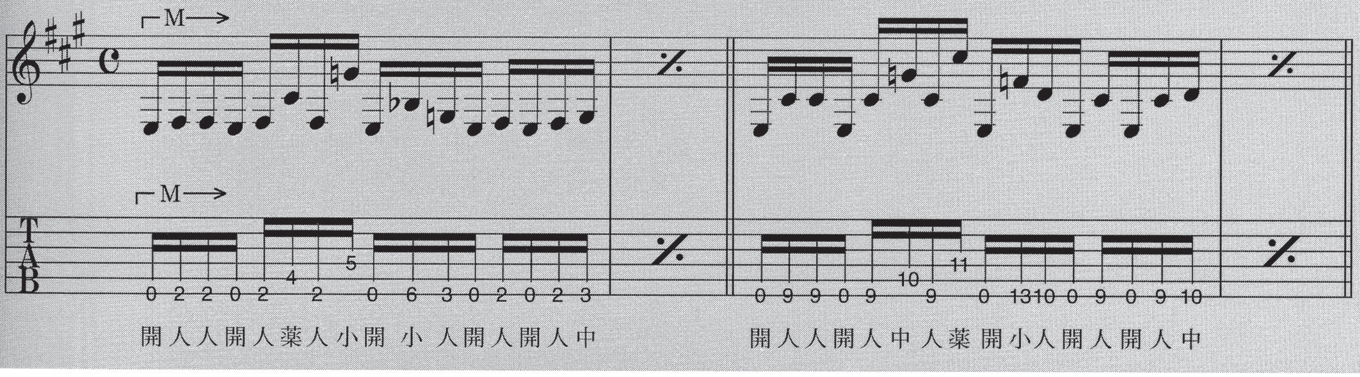
Ex-1 RIFF/BACKING フル・ピッキングによるクロマティック移動リフ

●左手のフィンガリングは[３ｆ→２ｆ→開放][４ｆ→３ｆ→開放]という２つの動きがメインになる。ピッキングは動きを極力コンパクトに、そしてインパクト勝負。

(全弦１音下げチューニング)

Ex-2 RIFF/BACKING スキッピングによる激しい音程差で作る緊張感

●フィンガリングも入り組んでいるが、厄介なのはオルタネイト(■V■V…)のピッキング。弦跳び部分はピン・ポイント練習が必要だ。また、その際に５弦からノイズが出やすい。人差指の腹で要ミュート！

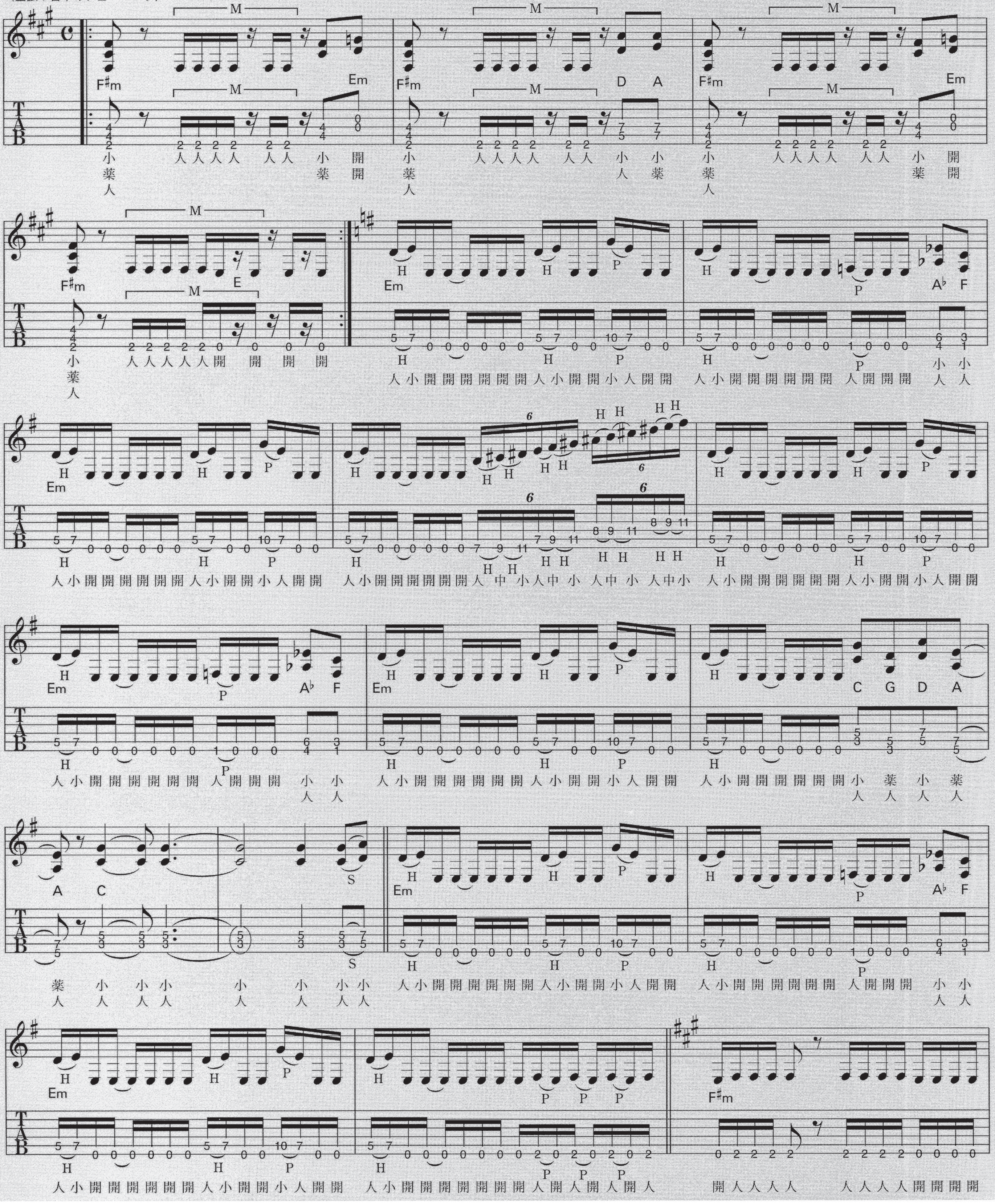
(全弦１音下げチューニング)

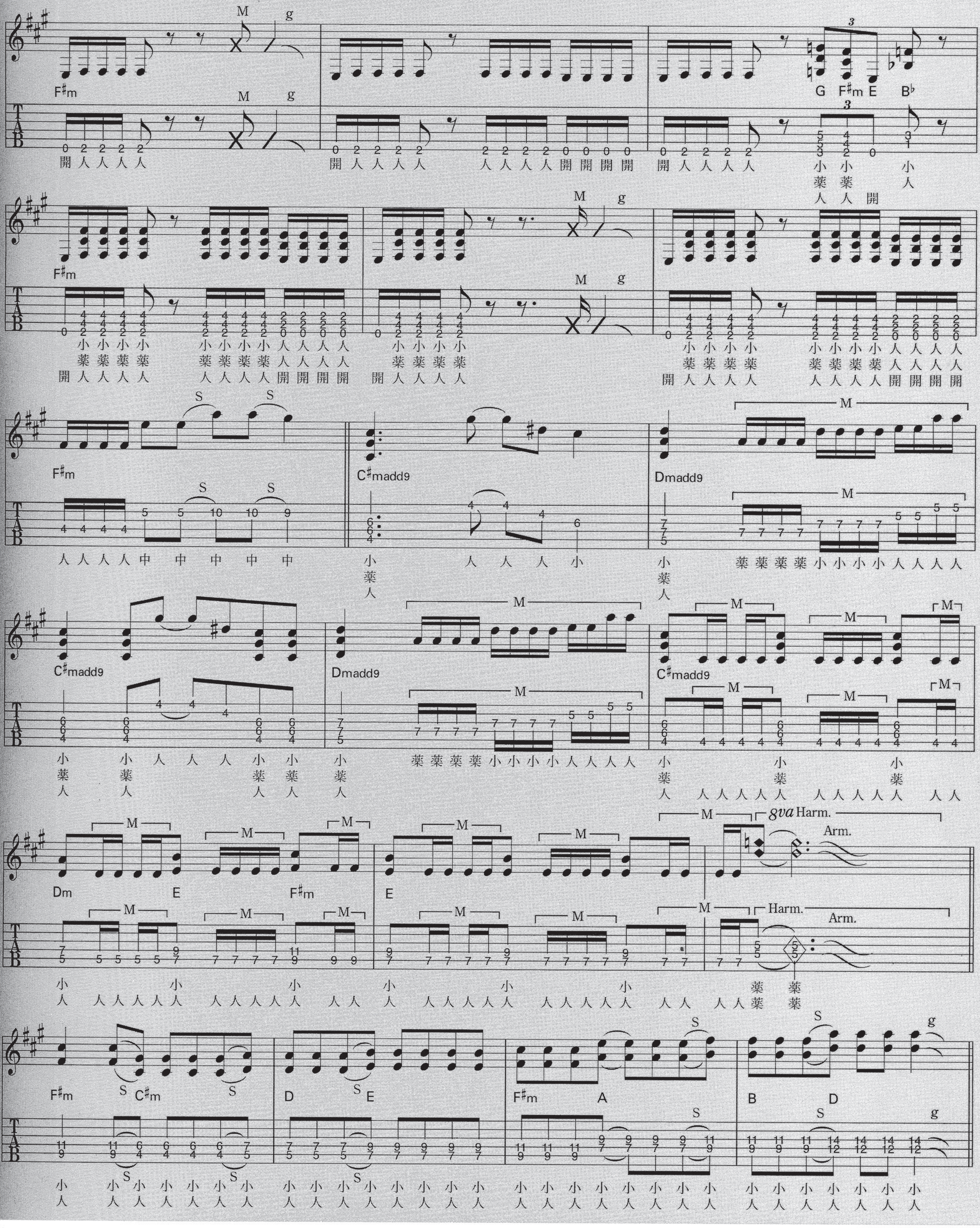


Ex-3 RIFF/BACKING あらゆる要素を盛り込んだプログレ的バッキング

●リズムに乗る事をテーマにしてみよう。例えば1～4小節目では、16分休符を入れた"裏打ち"が多い。この辺りをリズミカルにコナす事が大切だ。そしてテンポ・キープのため、メトロノームの類は必要不可欠。

（全弦1音下げチューニング）

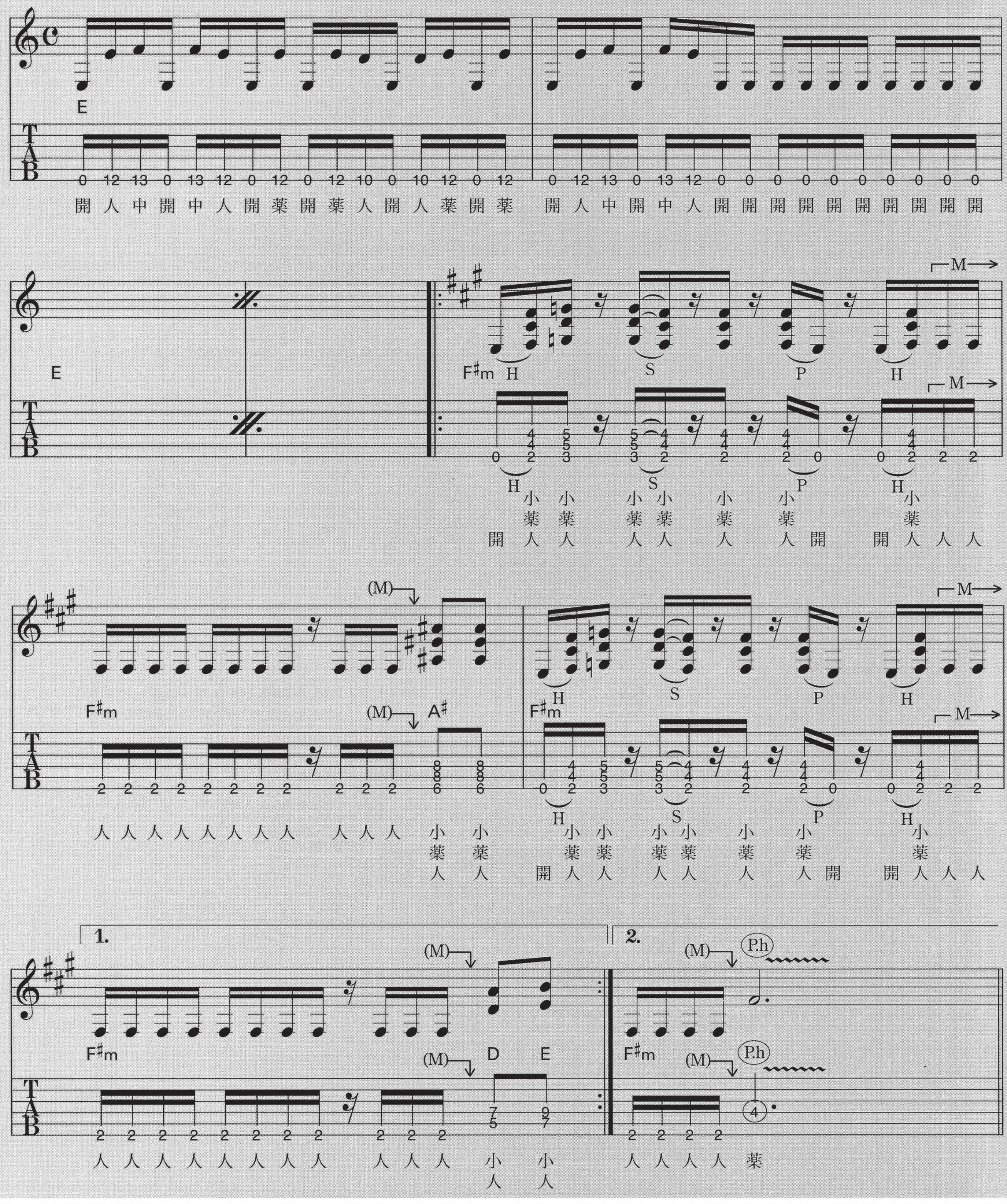



F♯m
G F♯m E B♭
C♯madd9
Dmadd9
Dm E F♯m
E
8va Harm.
Arm.
C♯m
D E
F♯m A
B D

Ex-4 RIFF/BACKING 真髄を垣間見せる過激なリフ展開

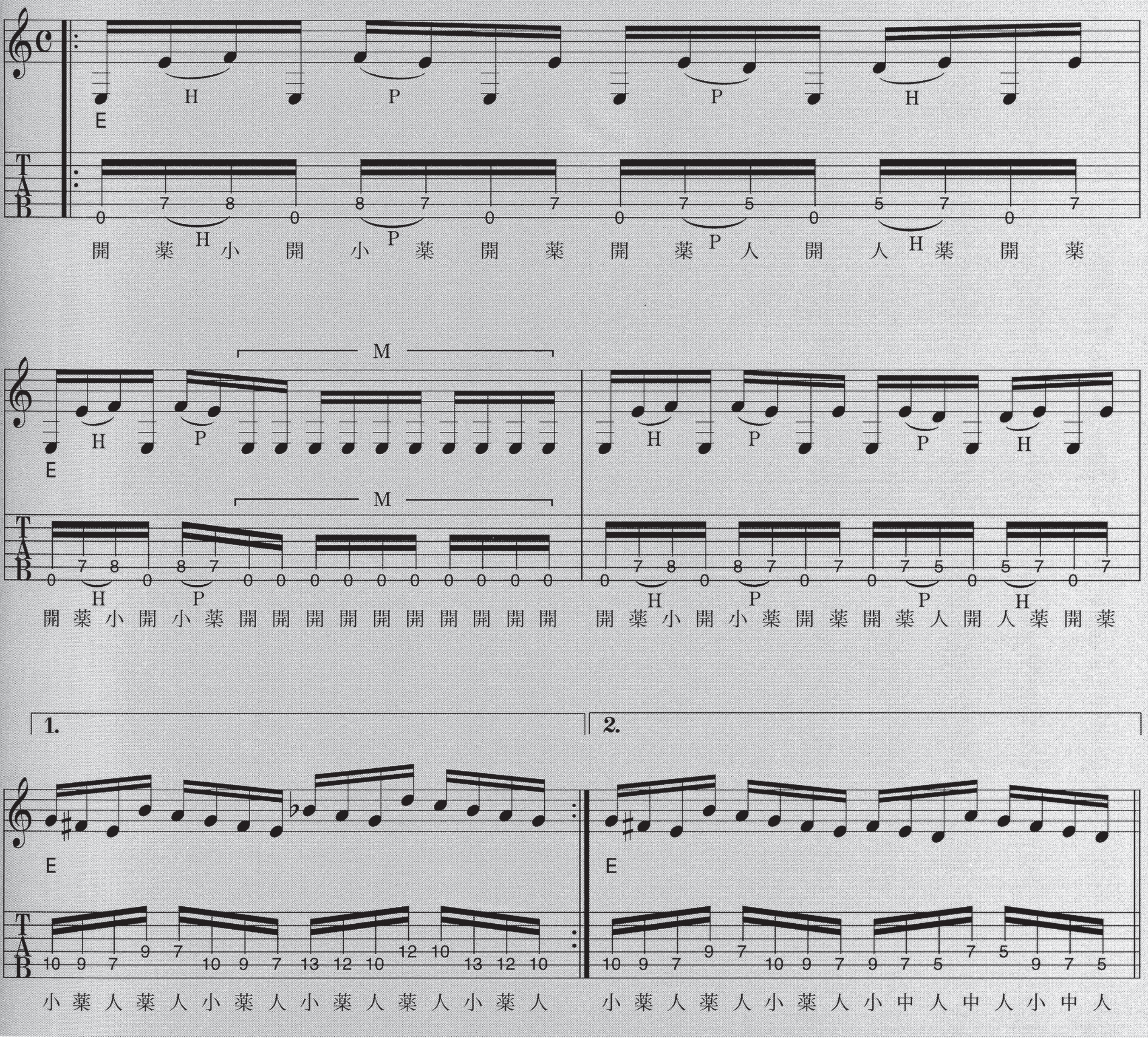
●アレキシ十八番の過激さを煽っているのは前半の6弦フレーズだが、ここではピッキングに要注意。ハイ・ポジションと開放ではピックが受ける圧力が異なる。それに惑わされる事なく弾く事が大切だ。

(全弦1音下げチューニング)



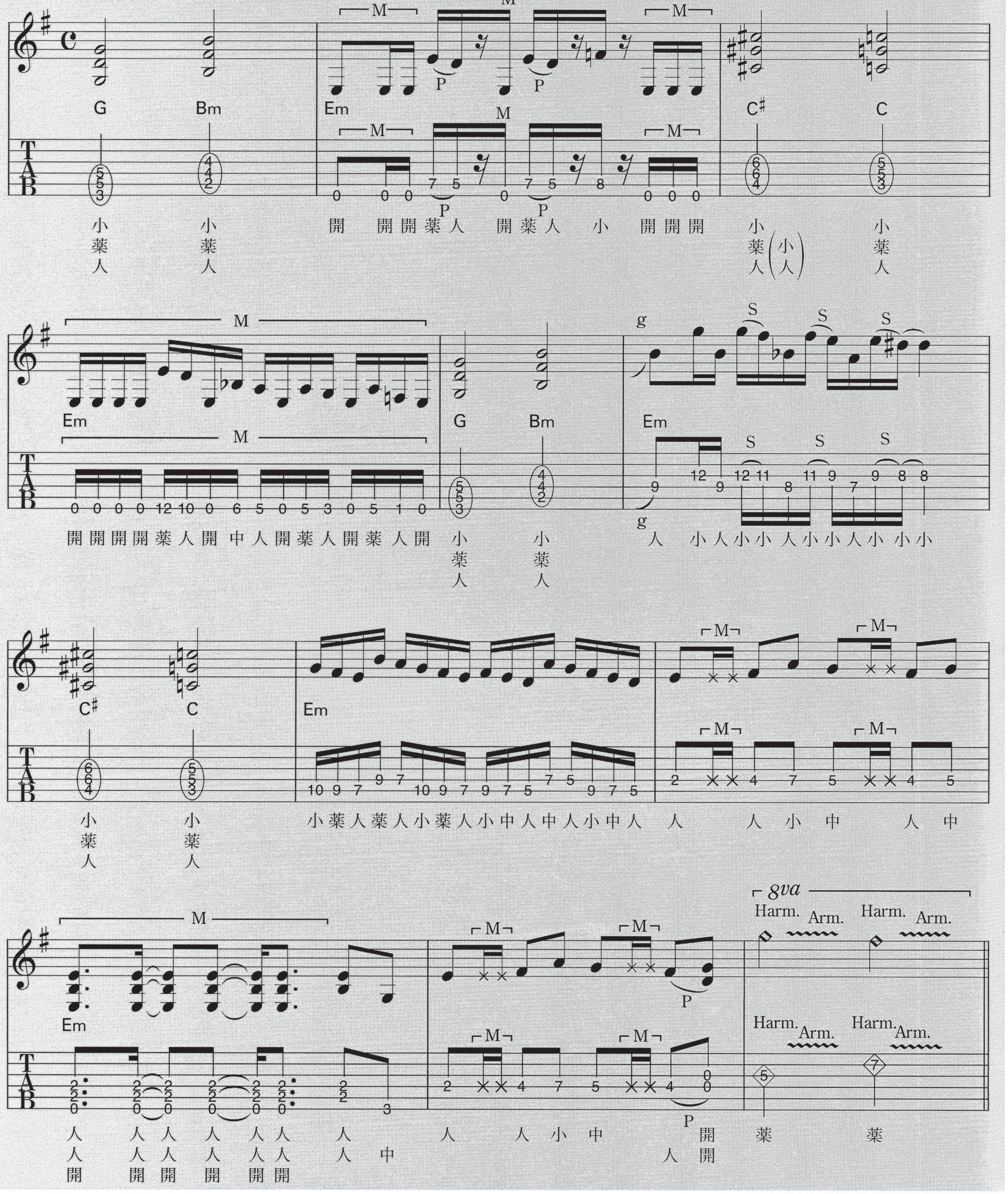
Ex-5 RIFF/BACKING 圧倒的に畳み掛ける低音弦リフ

●1、3小節目は［6弦開放＋5弦のハンマリング］の“半拍半フレーズ”。つまり“3”のリズム。これを繰り返していると、小節の頭を見失いやすい。4拍子の中で“3”のリズムを弾き続ける、ここが 課題だ。

（全弦1音下げチューニング）

Ex-6 RIFF/BACKING コードを基調にした正統派的ヘヴィ・リフ

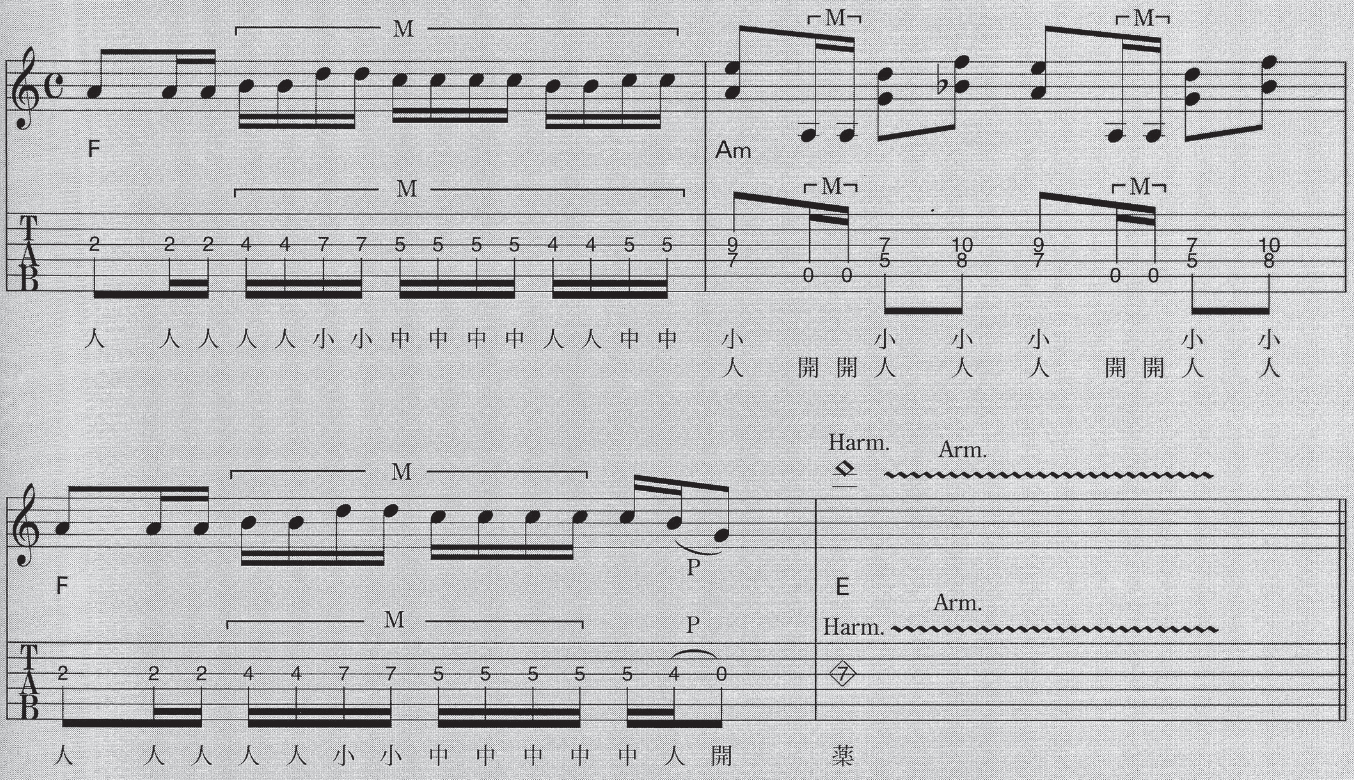
●ロング・トーン（コード）と16分音符のフレーズ、この繰り返しは言わずもがな、リズム面が乱れやすいパターン。テンポを落としての練習でも、しっかりと速さをキープしたい。

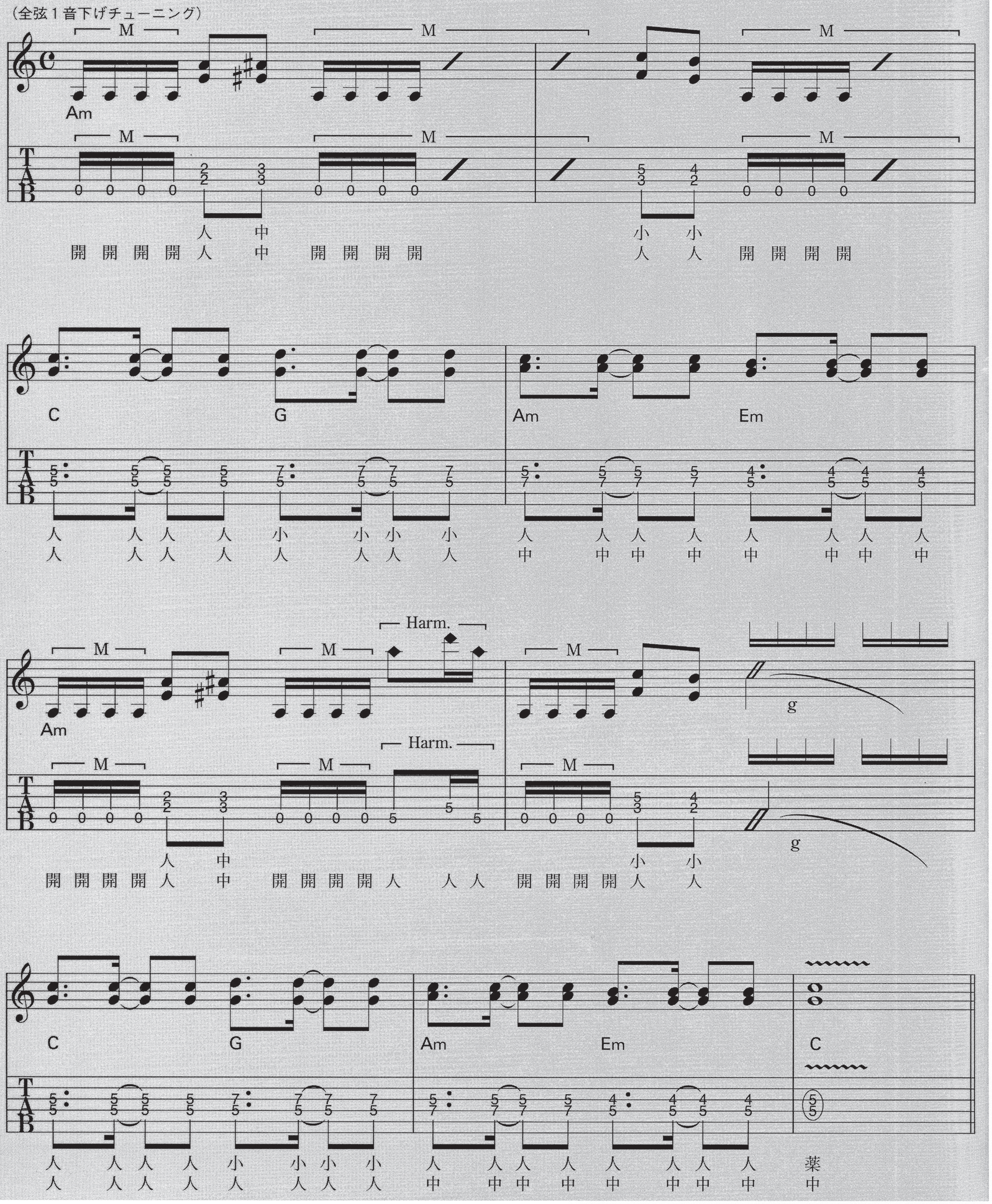
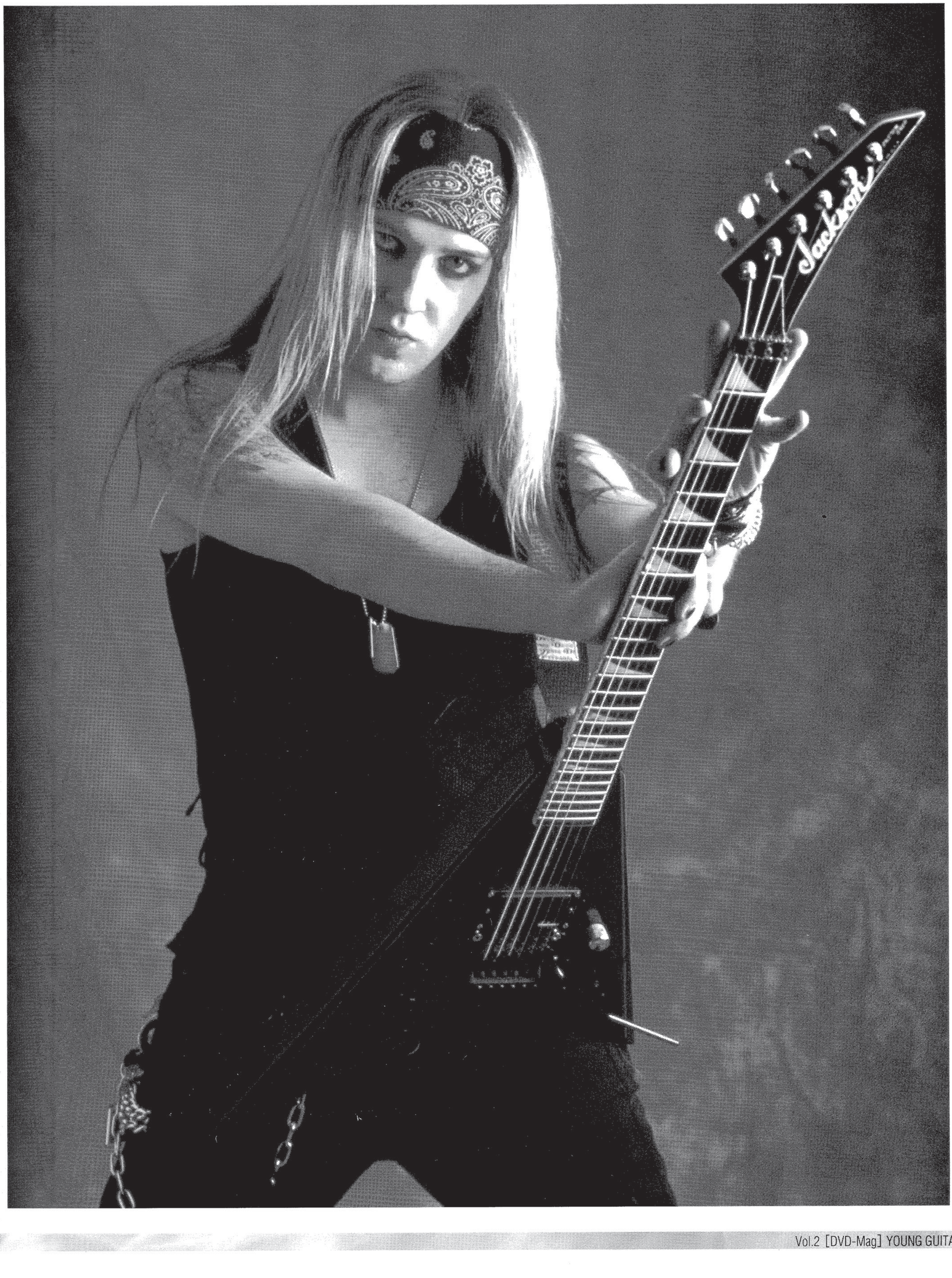
（全弦1音下げチューニング）



Ex-7 RIFF/BACKING ヘヴィの合間を埋めるタイトなリズム・パート1

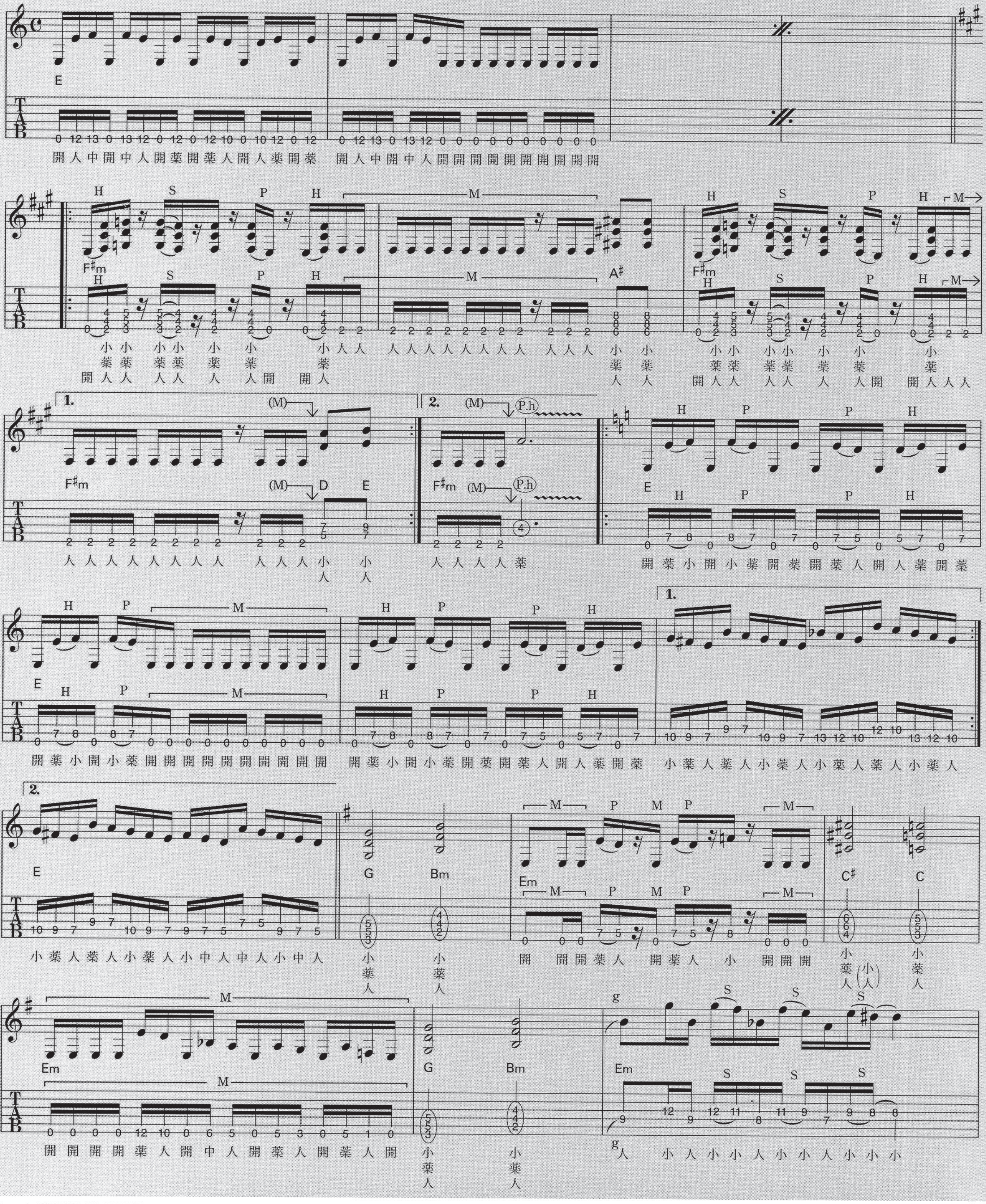
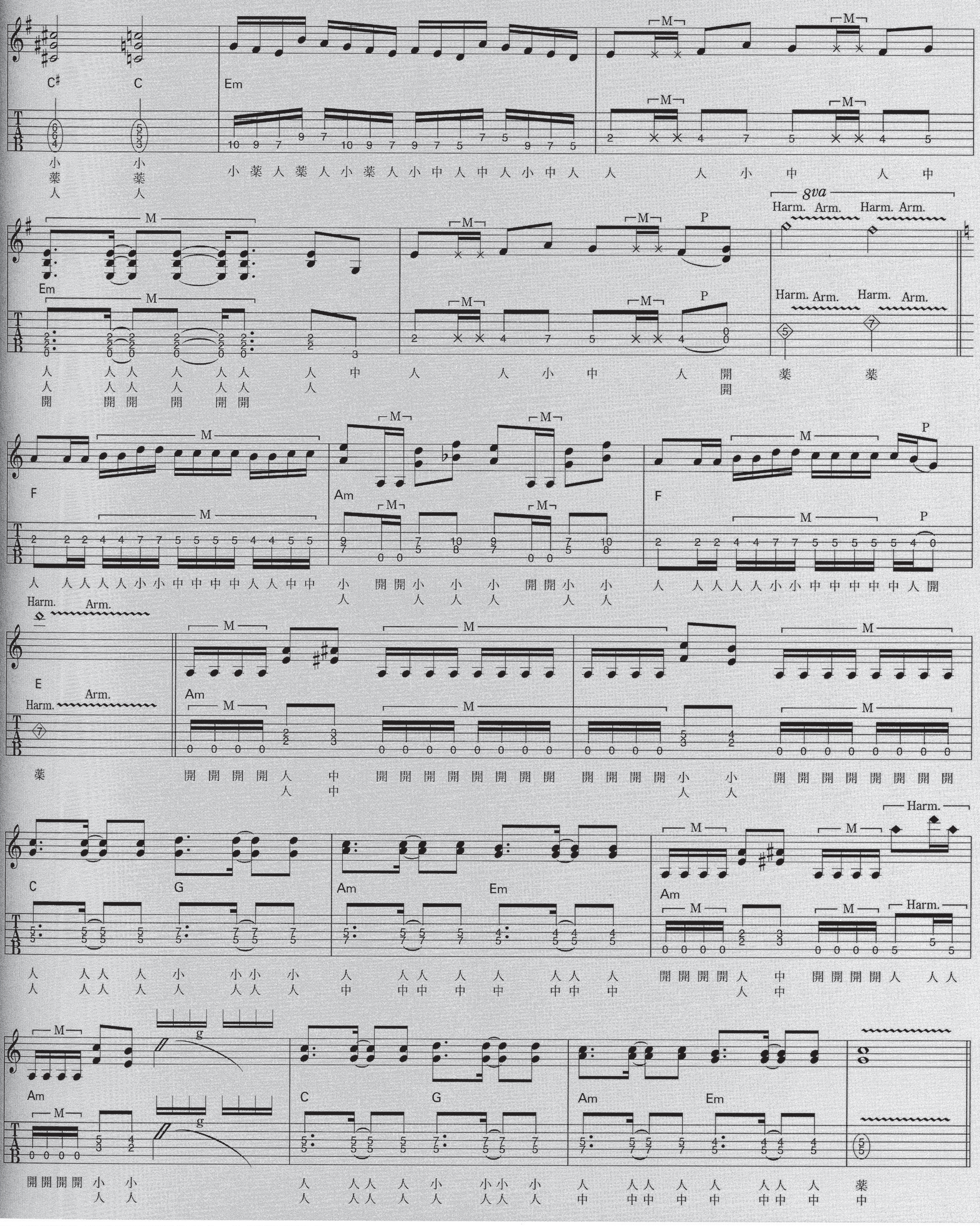
●見た目はシンプルだが、２小節目のコード移動は侮るなかれ。アレキシと同じ速さだと、移動先の小指（コードの３弦音）が安定しないのでは？　そこをブレないようにするのが、ここでは大切。

（全弦１音下げチューニング）

Ex-8 RIFF/BACKING ヘヴィの合間を埋めるタイトなリズム・パート2

●４小節目、８小節目、各最初のコード・フォーム［４弦７ｆ＋３弦５ｆ］をアレキシは［中指＋人差指］で押さえているが、これは彼ならでは。［薬指＋人差指］の方が自然ではある。


Jackson

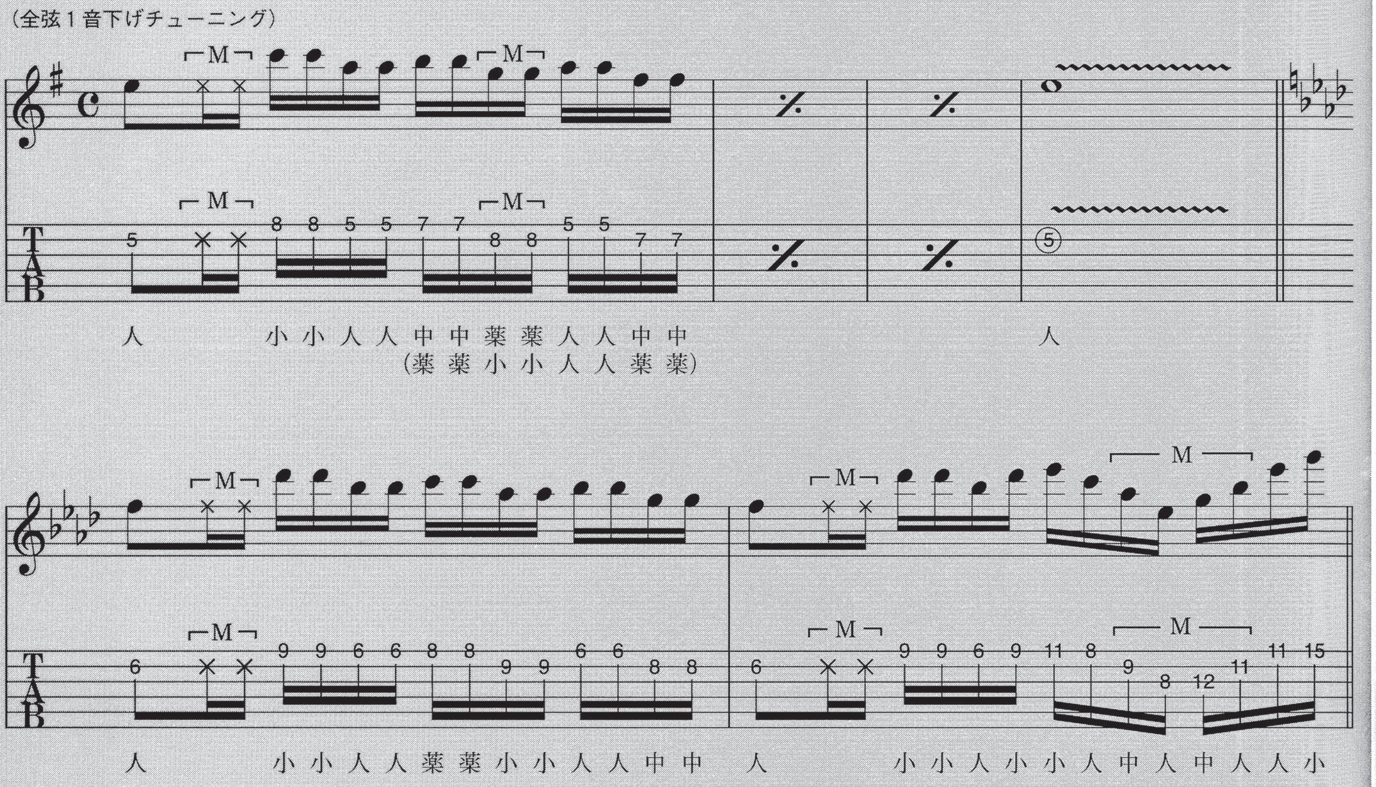
Ex-4〜Ex-8 RIFF/BACKING 激烈な展開が圧巻！ COBの真骨頂を浮き彫りにする統合例

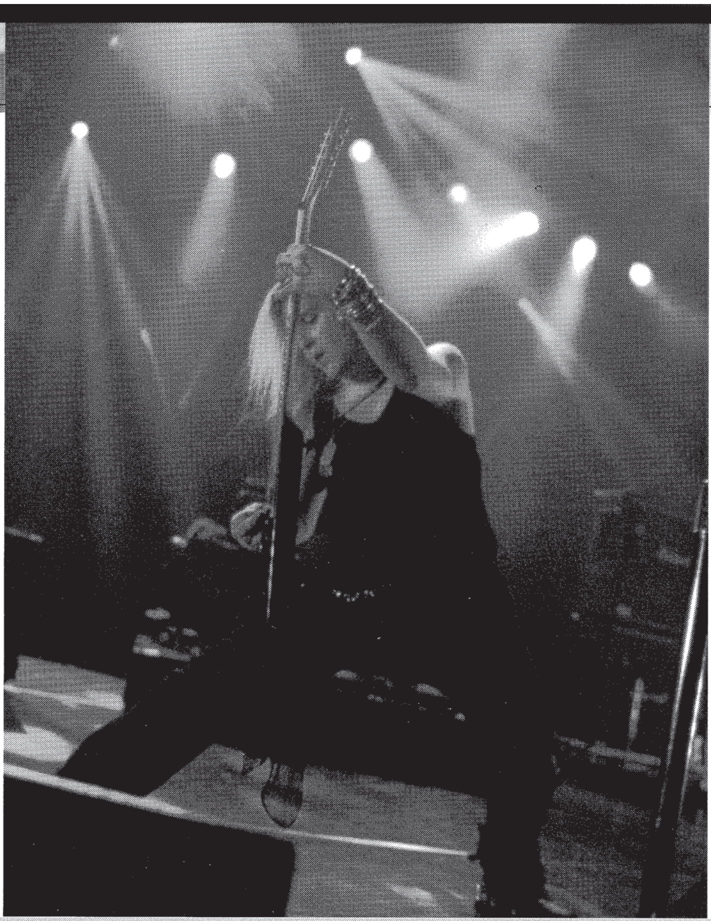
●このチャプターは、アレキシが細切れに紹介してくれたEx-4〜Ex-8までを繋ぎ合わせて連続編集したもの。最終的には、この統合された全体を通して弾き切れる次元にまで到達したい。最高峰を目指せ！

（全弦１音下げチューニング）


C♯
C
Em
F
Am
E
G
M
P
8va
Harm.
Arm.
g
T
A
B

Ex-9 SOLOING LICK ミュートで表情を付ける移調フレーズ

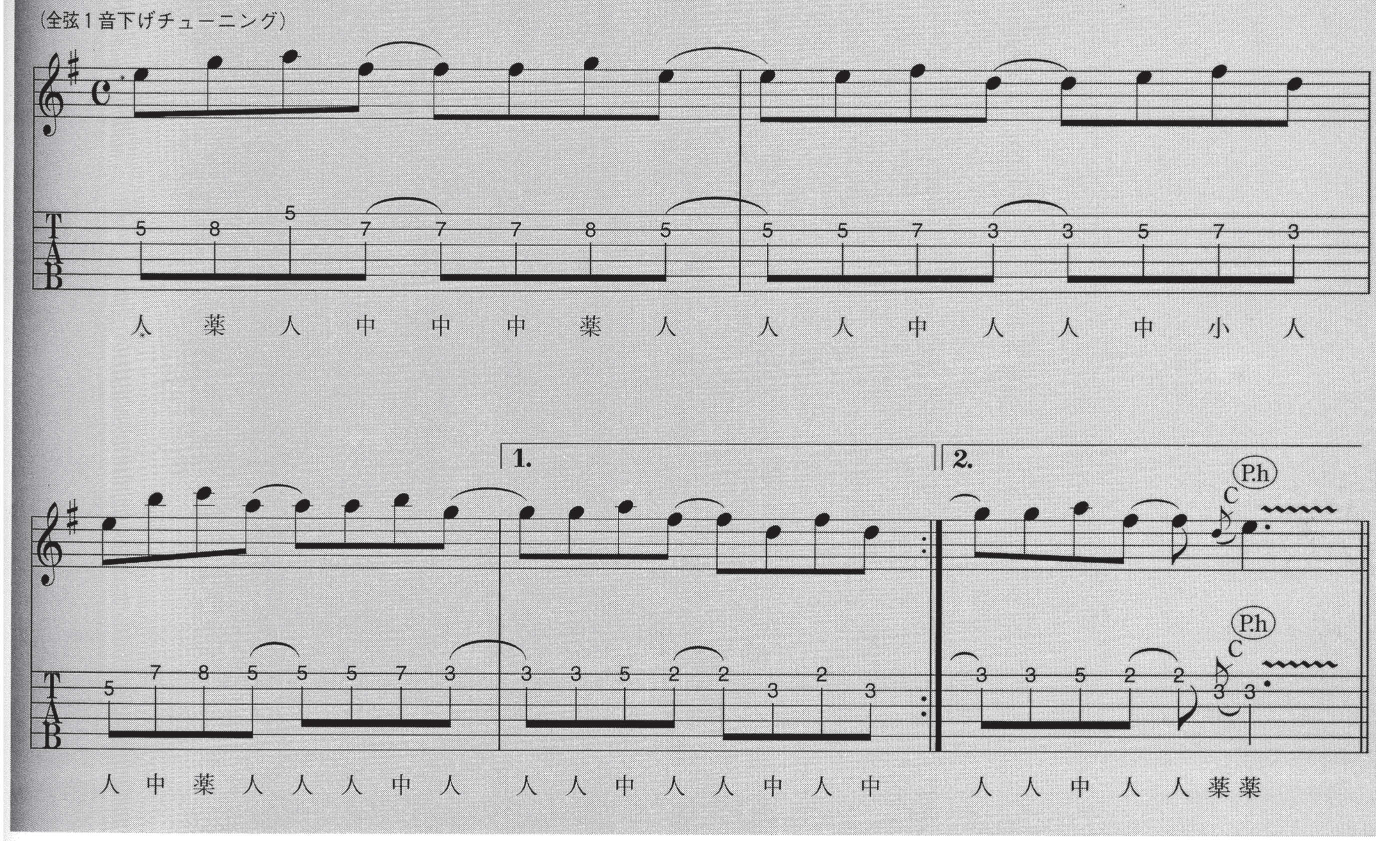
●Mで示すミュート音には、全体に抑揚を付ける役割がある。自分なりのニュアンスで、良い感じのミュート具合を探ってみよう。最後2拍の移動では、各最初の音（1弦11f、3弦12f）の位置を視覚的に捉えておくべし。





Ex-10 SOLOING LICK リズムの鍵を握るシンコペーション・フレーズ

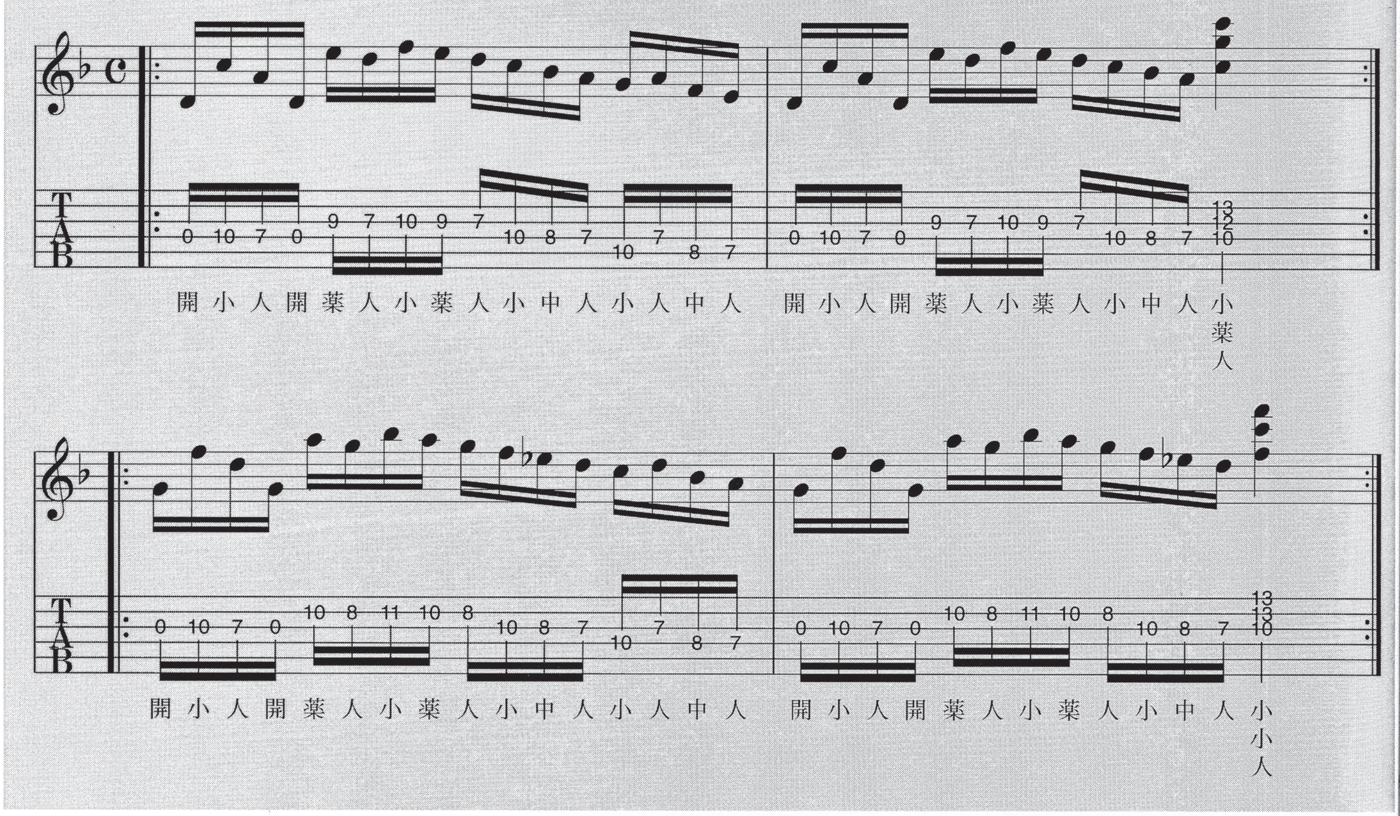
●フレーズの軸になるのが人差指。5f→3f→5f→3f→2fと2弦〜1弦上を移動する人差指の動きを整理しておくのがポイント。8分音符でクッて行くシンコペーションのリズムも良い流れを意識しよう。



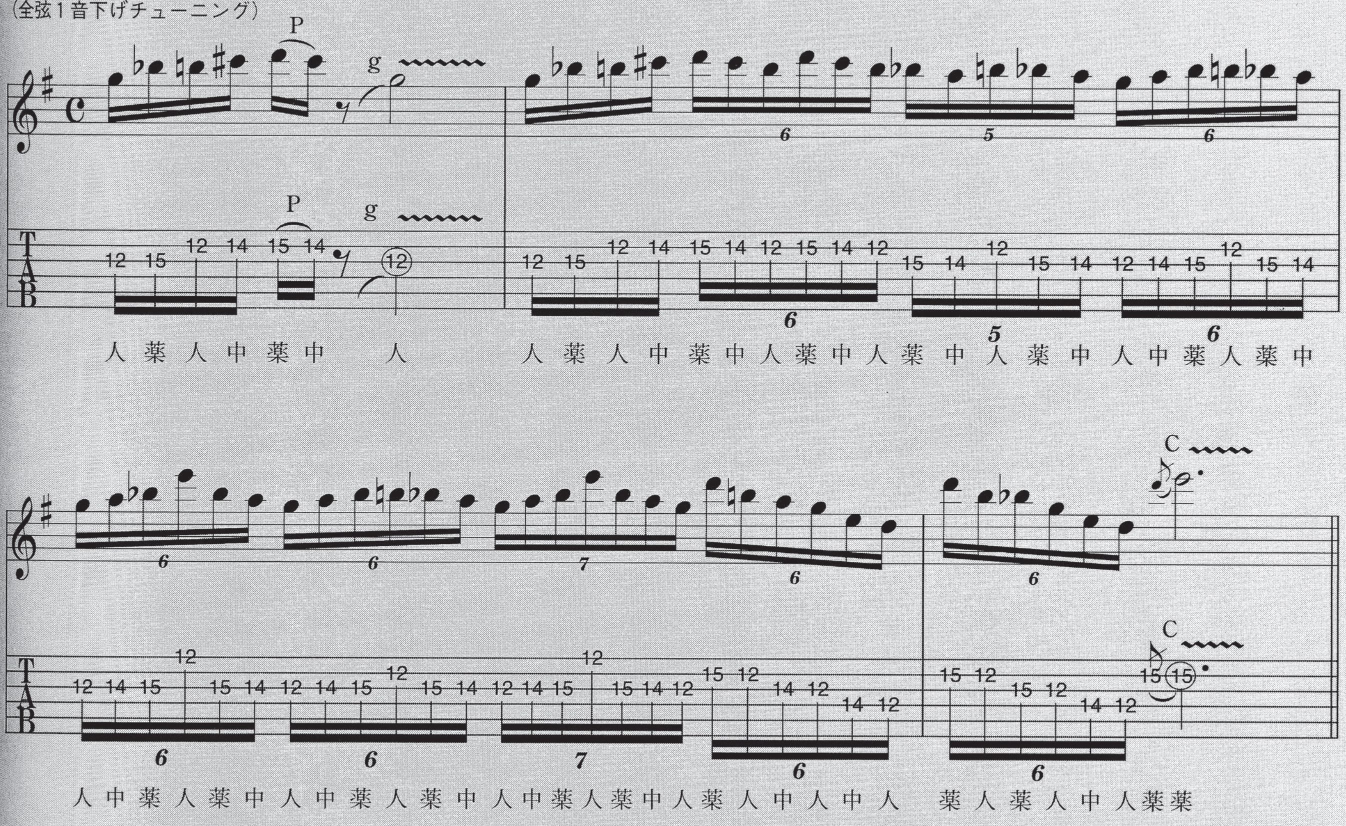
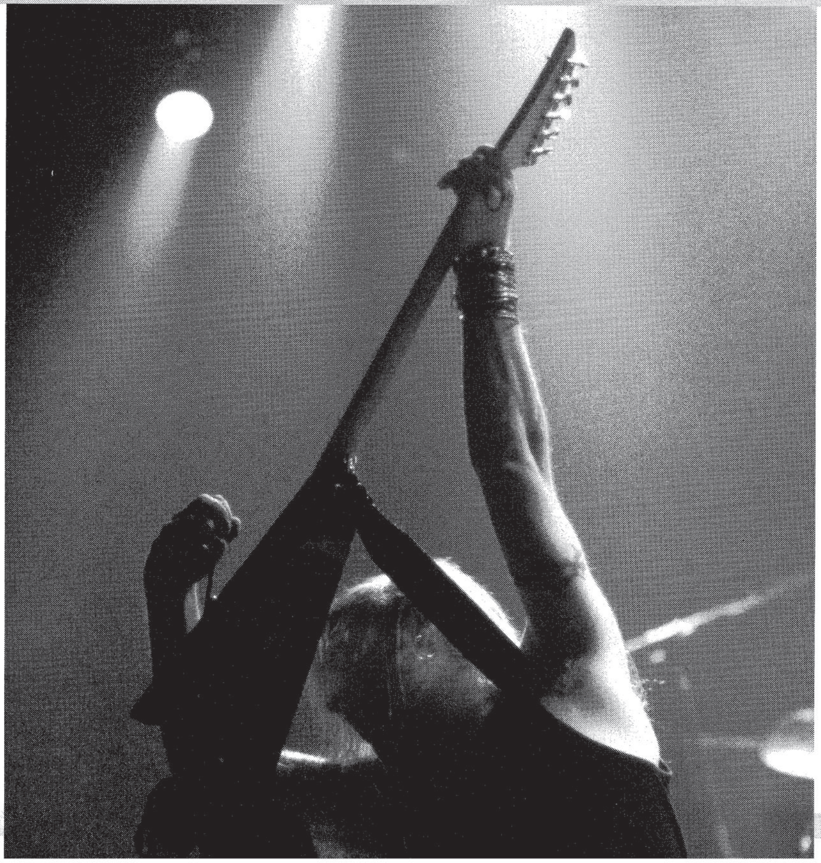
Alexi Laiho／CHILDREN OF BODOM

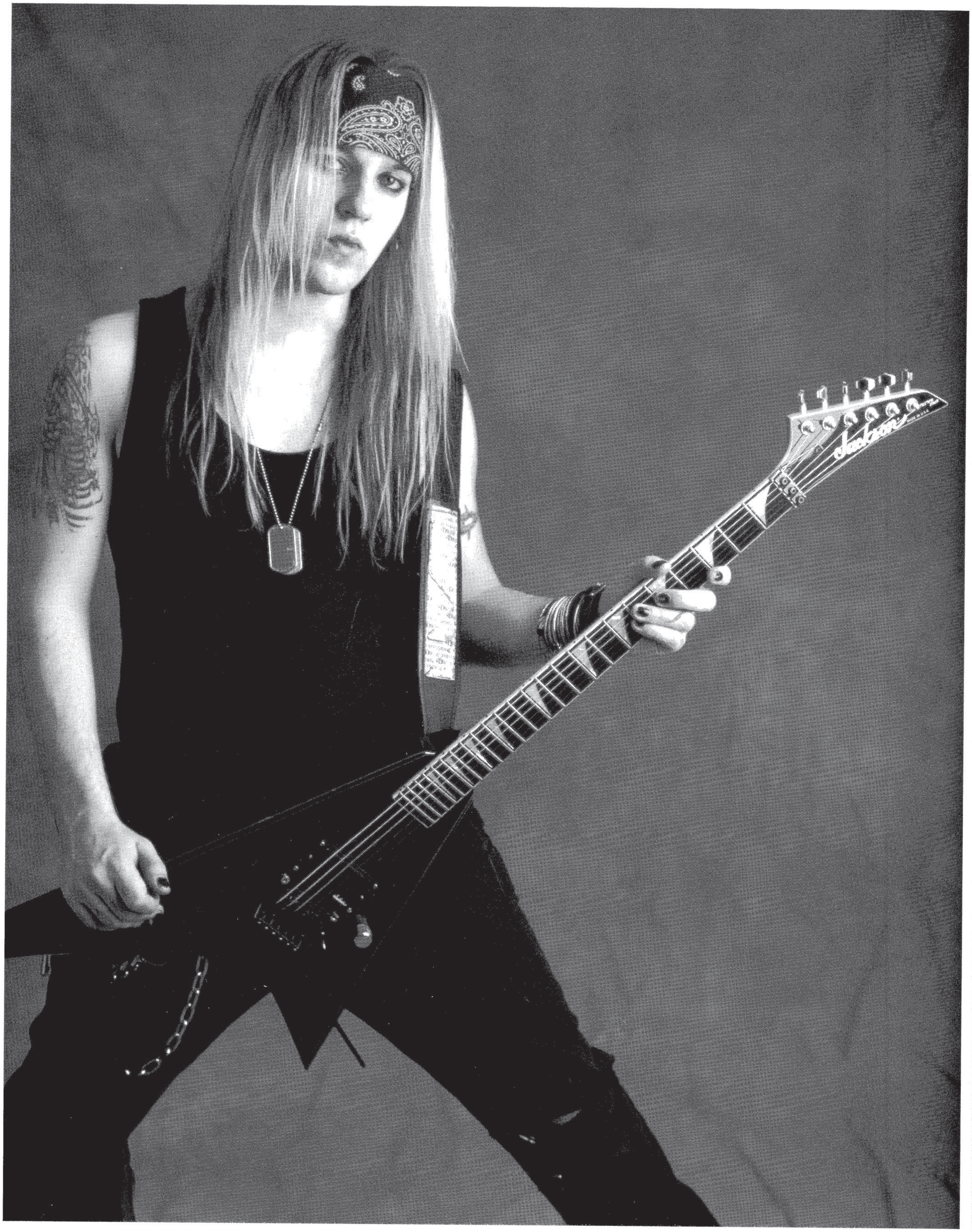
Ex-11 SOLOING LICK 開放含みのテクニカル・フレーズ

●“一瞬だけ開放音をハサむ”フレーズでは、無防備になった開放からピッキング・ノイズが出やすい。ピッキングは小さい動きで、細心の注意を払う事。普段からそれを心掛ければ自然に良いスタイルが身に付くはず。

（全弦１音下げチューニング）

Ex-12 STRING SKIPPING ペンタトニック系スキッピング・フレーズ

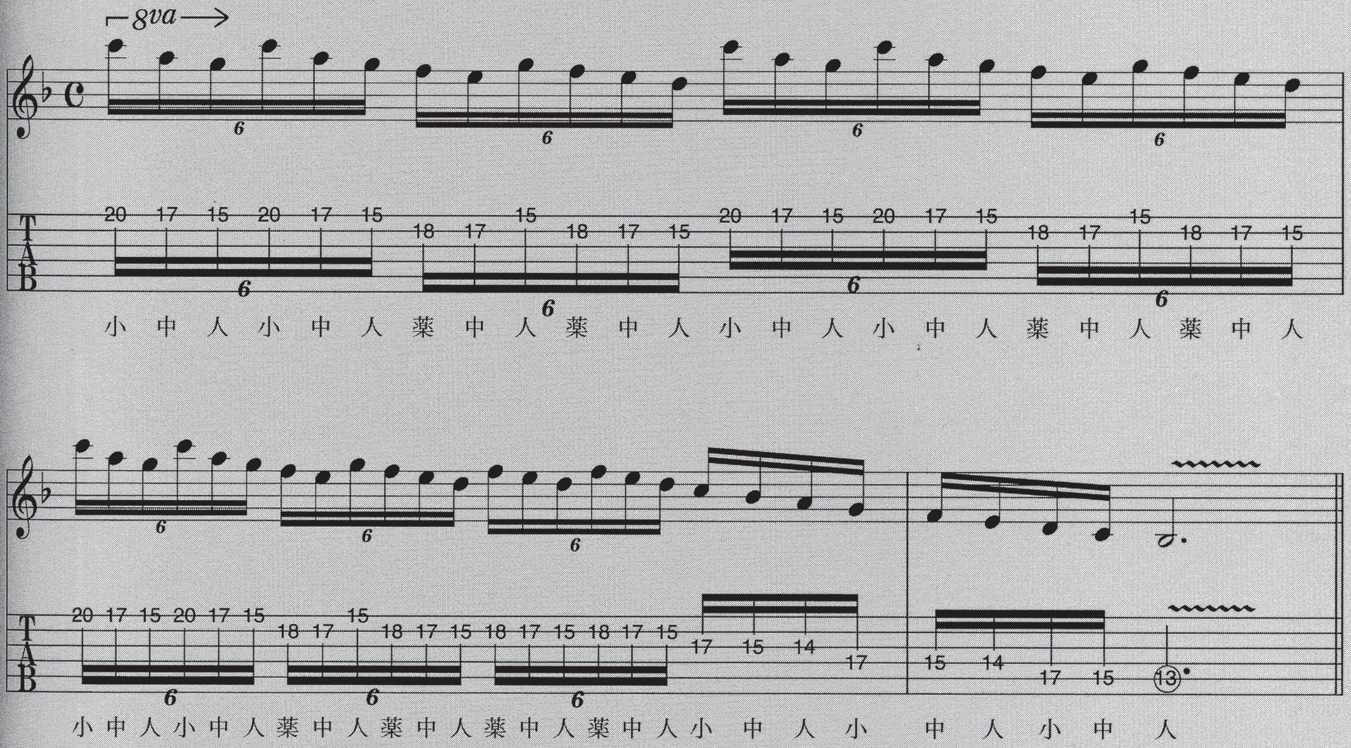
●コードEmのペンタトニック系。2弦14fはメジャー6th、3弦15fは♭5thになる。3小節目の2弦スキッピングでは、人差指（1弦12f）の頭で2弦をミュート。必要不可欠なノイズ防止策だ。

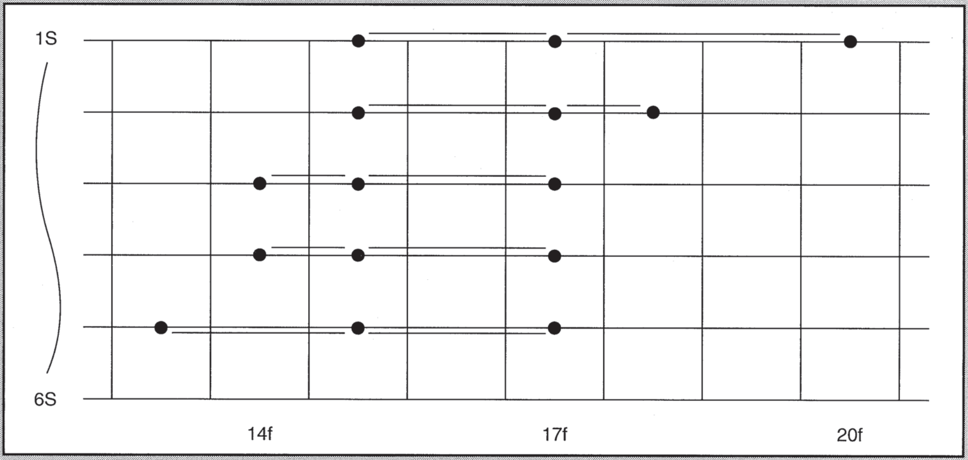
（全弦1音下げチューニング）





Ex-13 FULL-SHRED PICKING 手首スナップ駆使のフル・ピッキング

●「ピッキング時に手首を柔らかくする。でも、ピックはしっかり握ってハードに弦をアタック」というアレキシのアドバイスを頭に入れて、スナップ・ピッキング。コードはDm。

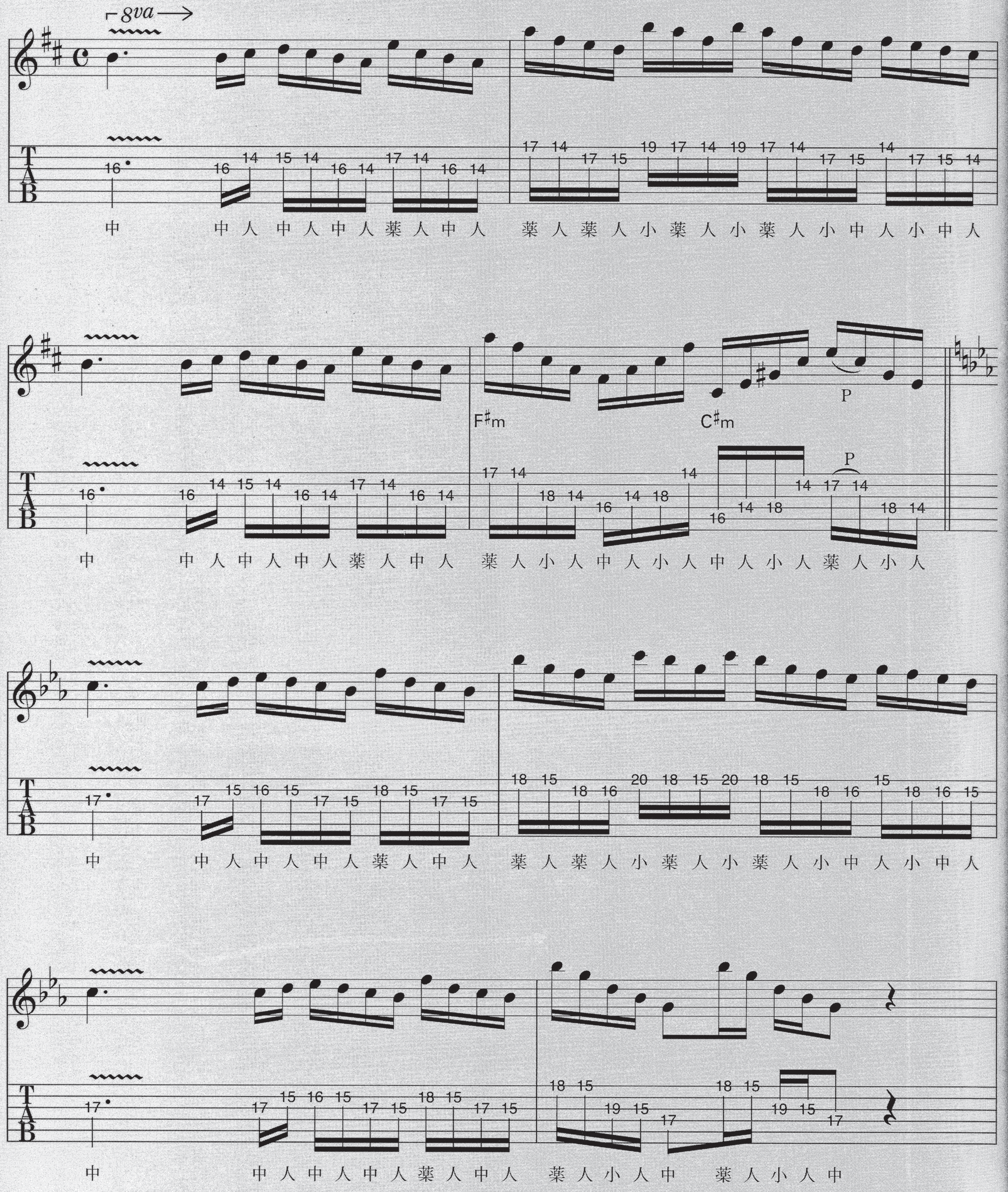
（全弦１音下げチューニング）

図a◆Ex-13のDマイナー・スケール・ライン

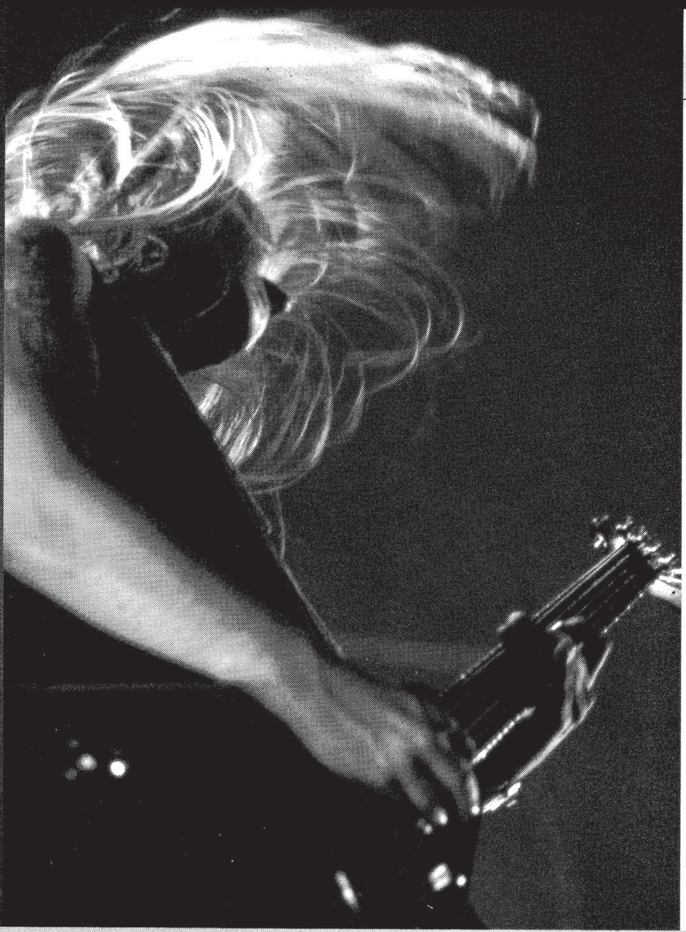


Ex-14 SKIPPING ARPEGGIO スキッピング・アルペジオを含む移調フレーズ

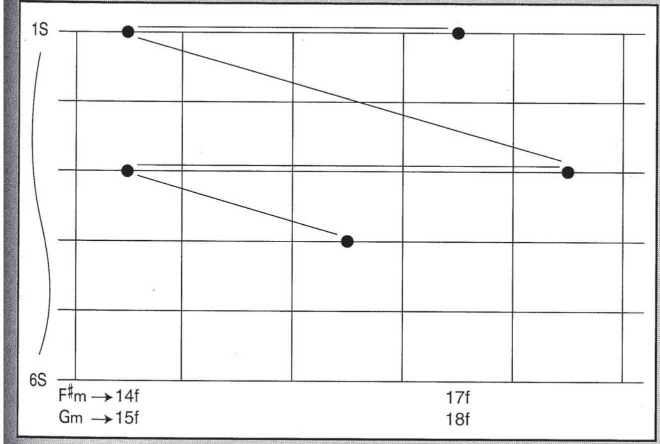
●前半の３小節はBm、移調した後半の３小節はCmのスケール。コードと合わせてそれを確認したい。４小節目とフレーズ最後は、スキッピング・アルペジオのプロトタイプ的プレイ(図b-1＆図b-2)。

（全弦１音下げチューニング）

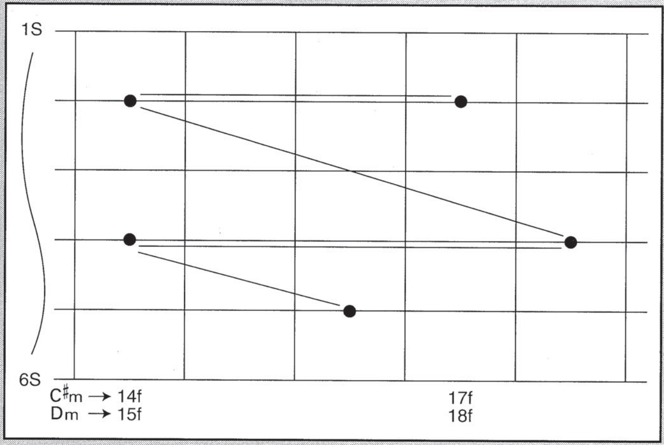
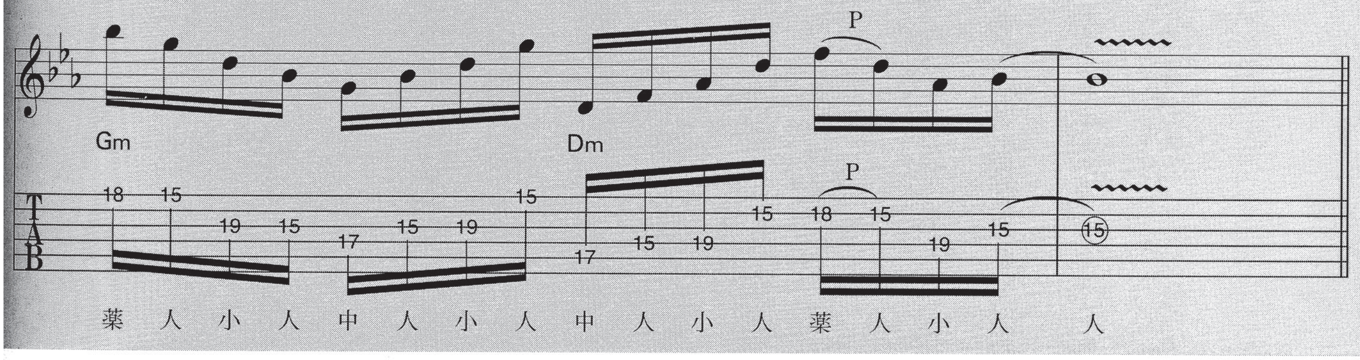




図b-1◆Ex-14の1〜4弦マイナー型スキッピング・アルペジオ



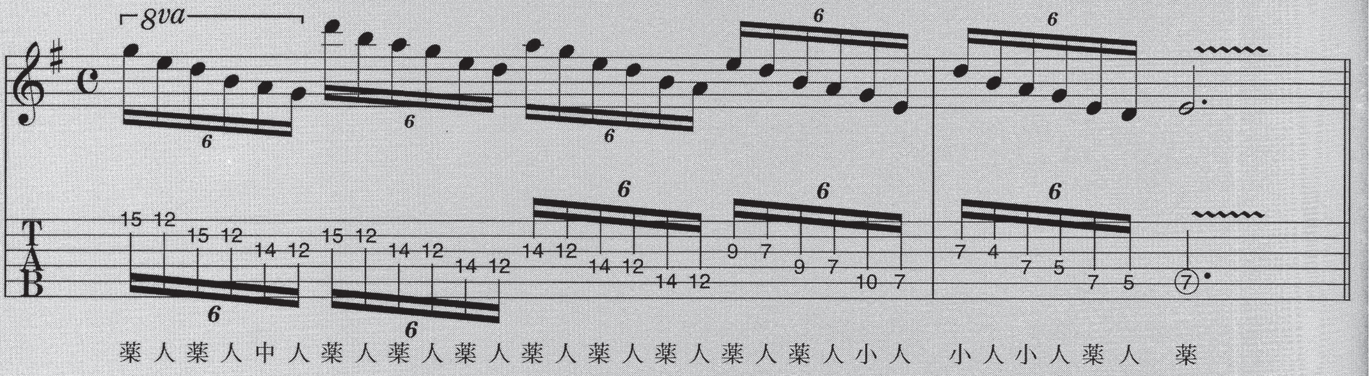
図b-2◆2〜5弦マイナー型スキッピング・アルペジオ



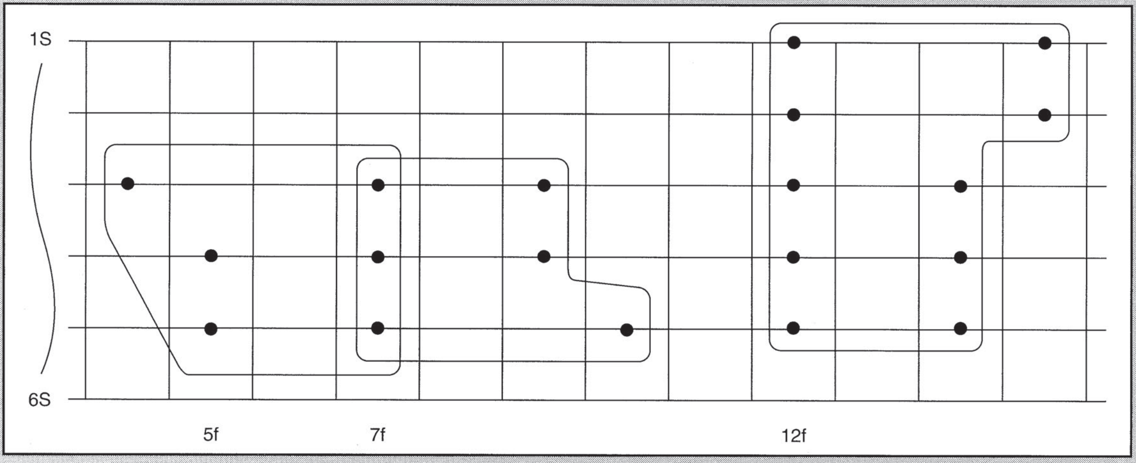
Ex-15 PENTATONIC MOVE ペンタトニック“3ポジション”大移動

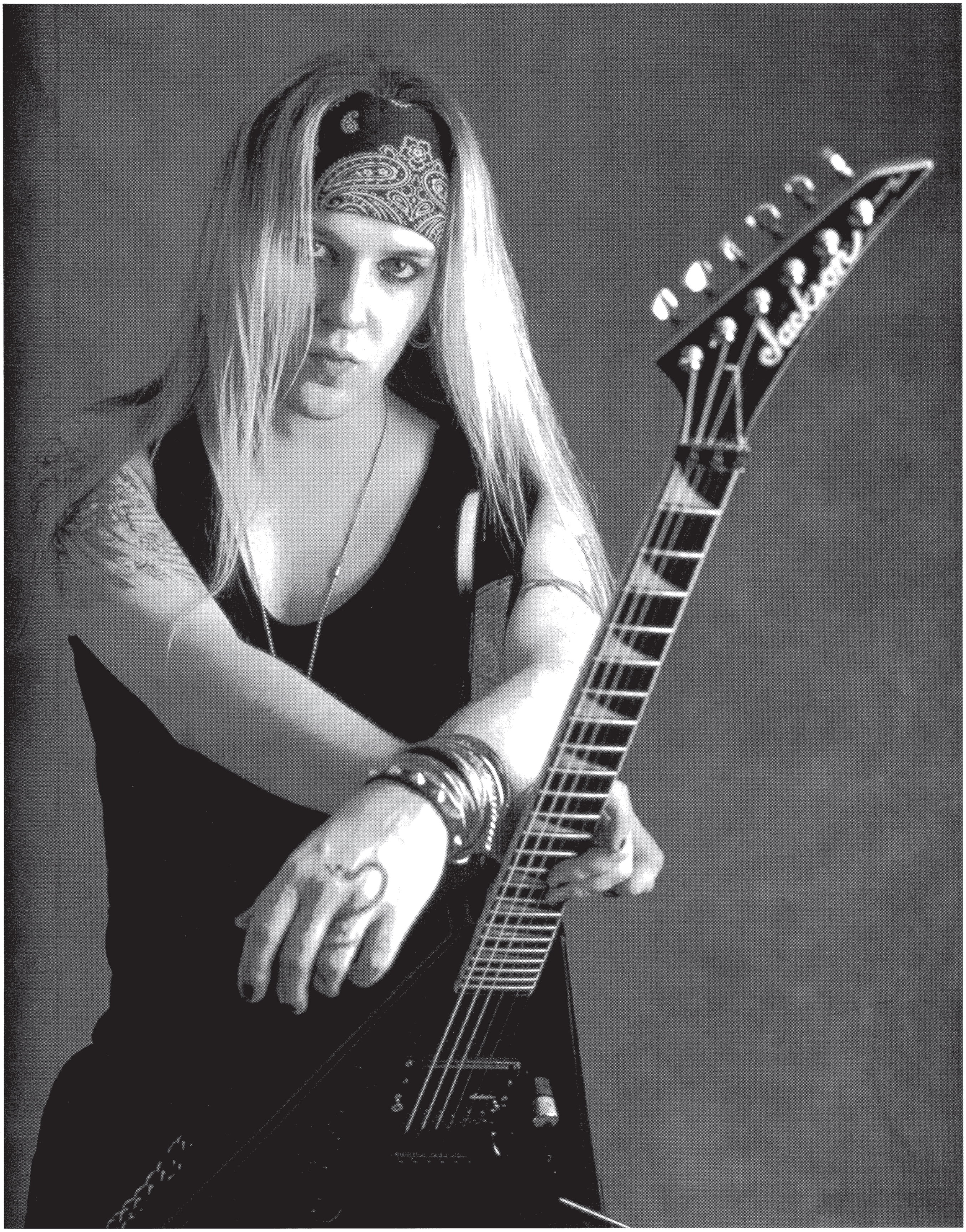
●図cの３ポジション移動ペンタトニック。一番のポイントは、１小節目３拍から４拍への大ジャンプ。１つ目のポジションを弾いている時から、移動後の第１音目［３弦９ｆ］を“薬指で狙っている”心構えが大事。

（全弦１音下げチューニング）

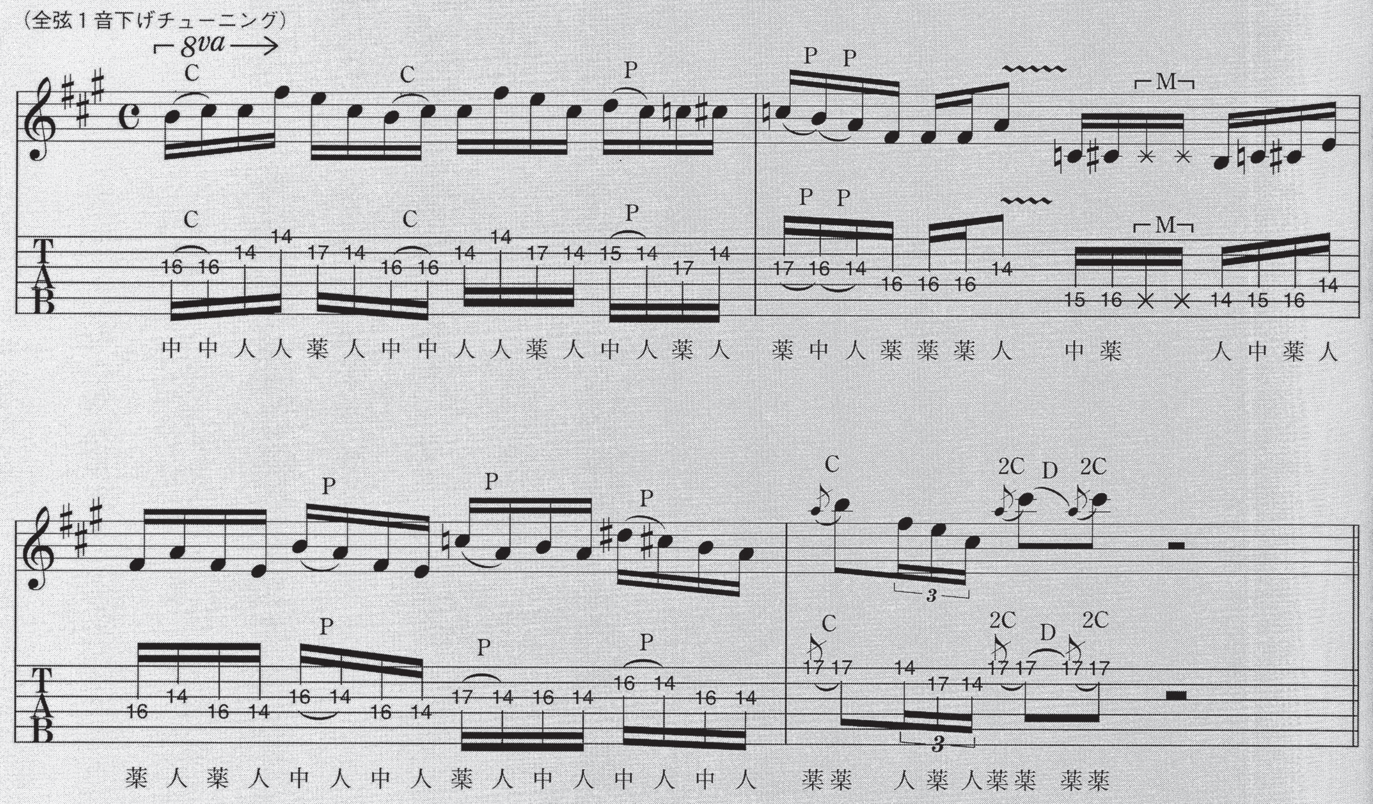


図c◆Ex-15のペンタトニック移動図

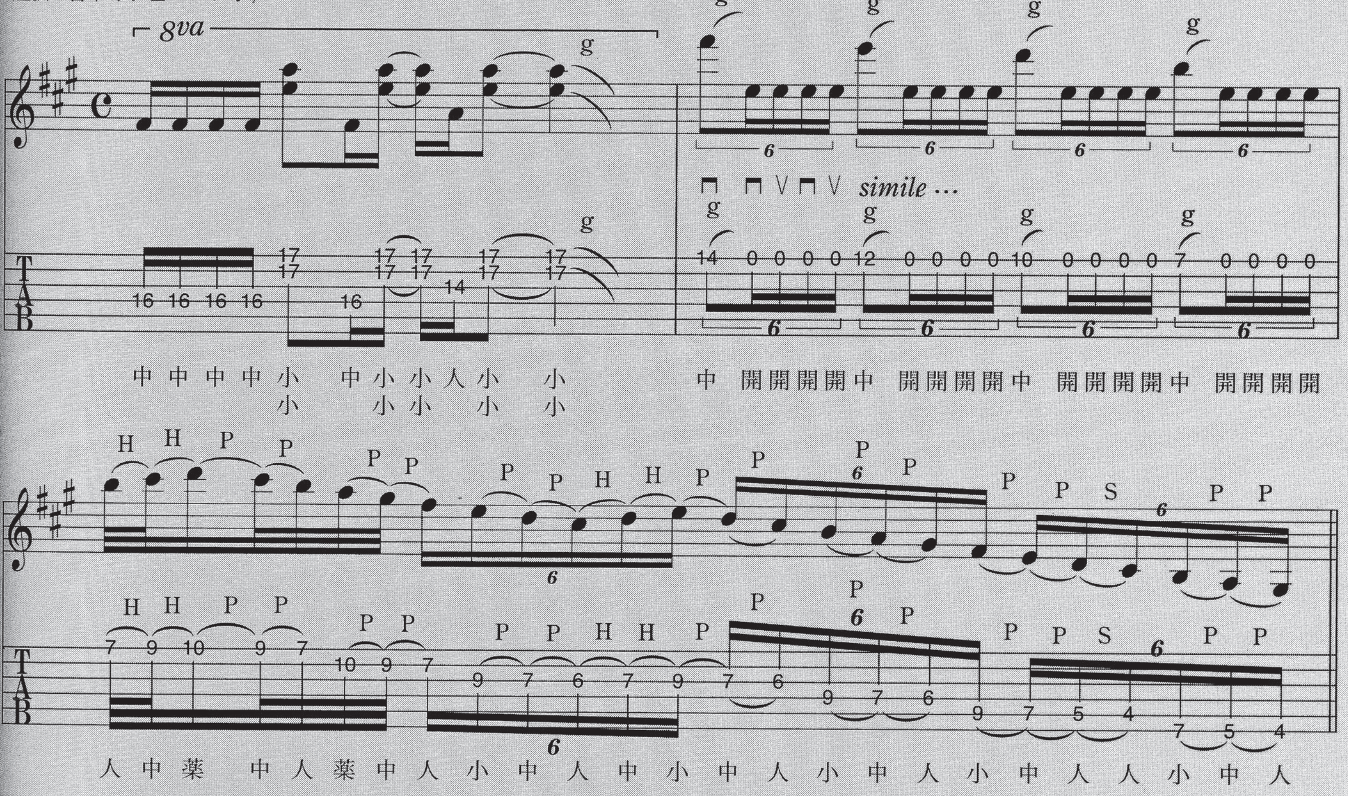


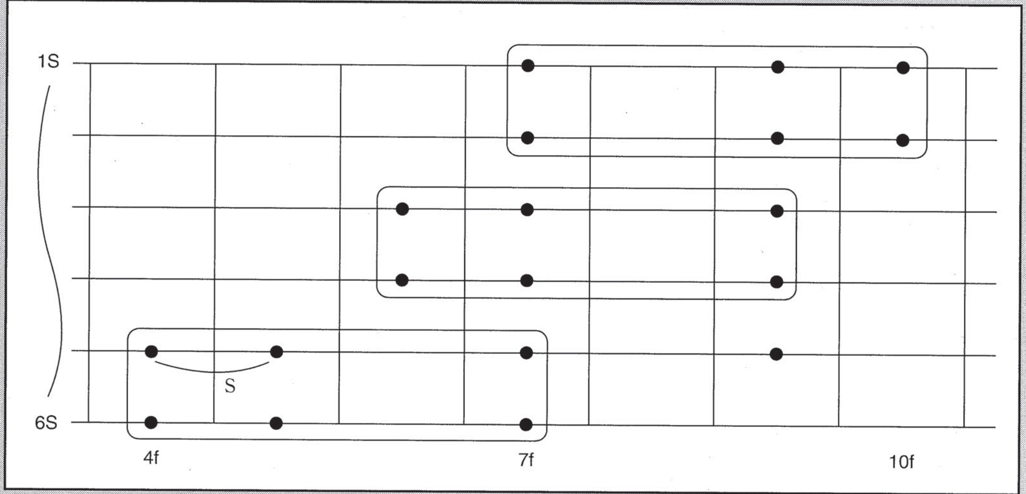

Jackson

Ex-16 前半 BLUES-STYLING LINE ペンタトニック感覚を発散するオーソドックス・スタイル

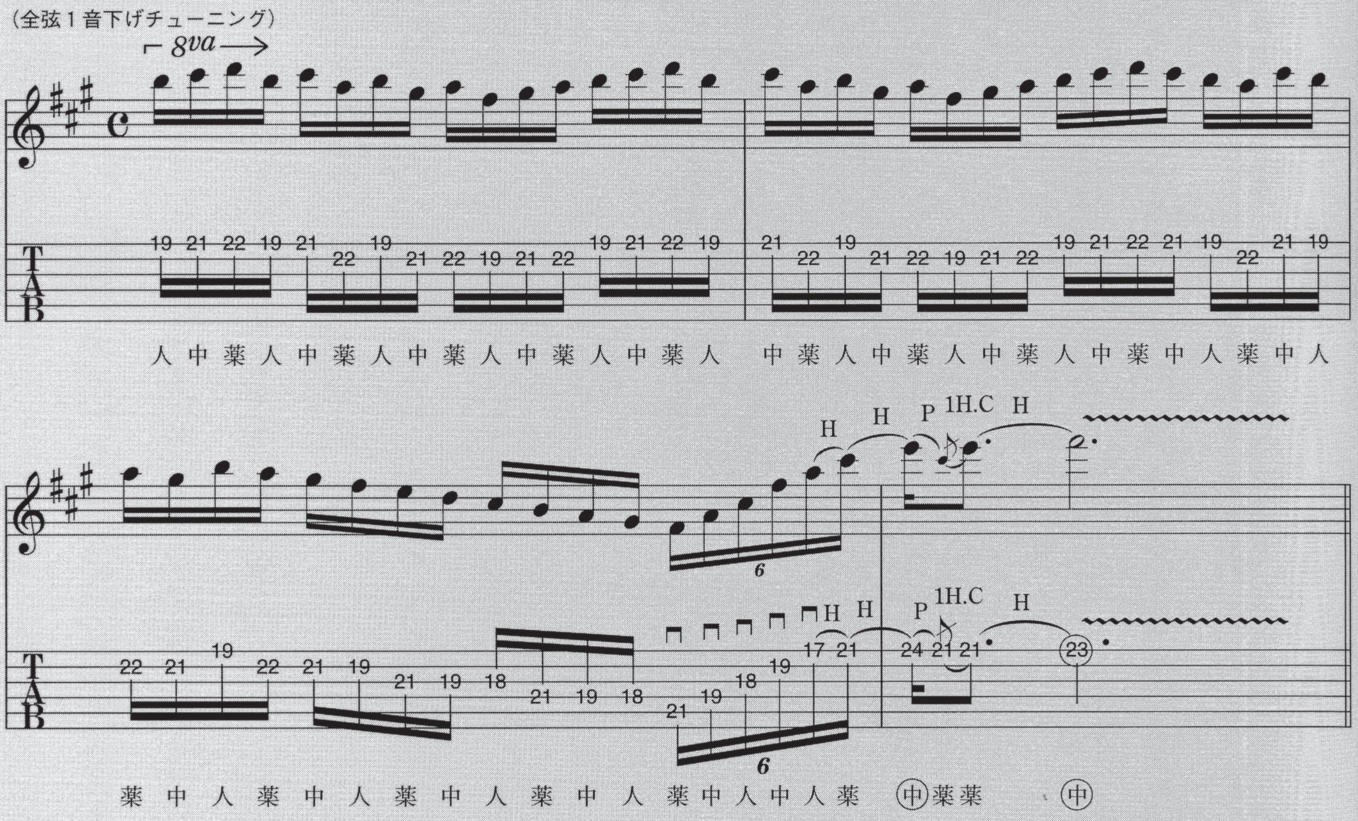
●例えば1小節目、3小節目のリックだけ…、つまり理路整然とした部分だけを盗むという作戦が、ブルース的なフレーズではお勧め。その方が、自分のプレイに生かしやすいはずだ。

後半 TRICKY LICK & LEGATO グリス＋開放～レガート・フレーズ

●2小節目は、ハイ・ポジションからのグリス→1弦開放フル・ピッキング。3小節目のレガートでは、頭の1弦7f以外、アレキシは一切ピッキングをしていない。左手だけで音を出して行くフィンガリング技だ。

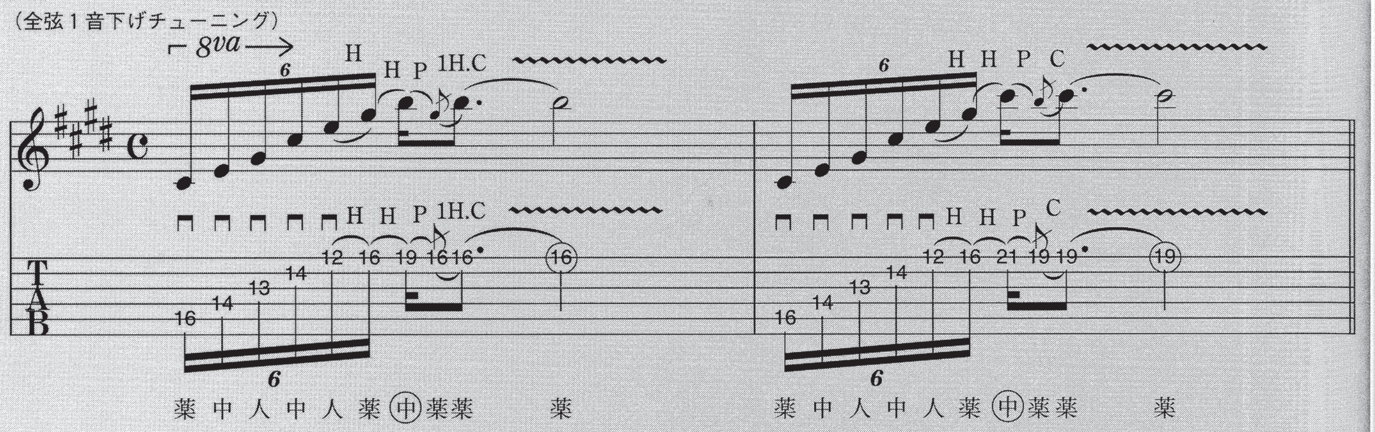
(全弦1音下げチューニング)

図d◆Ex-16後半のレガート・フレーズ・ポジション



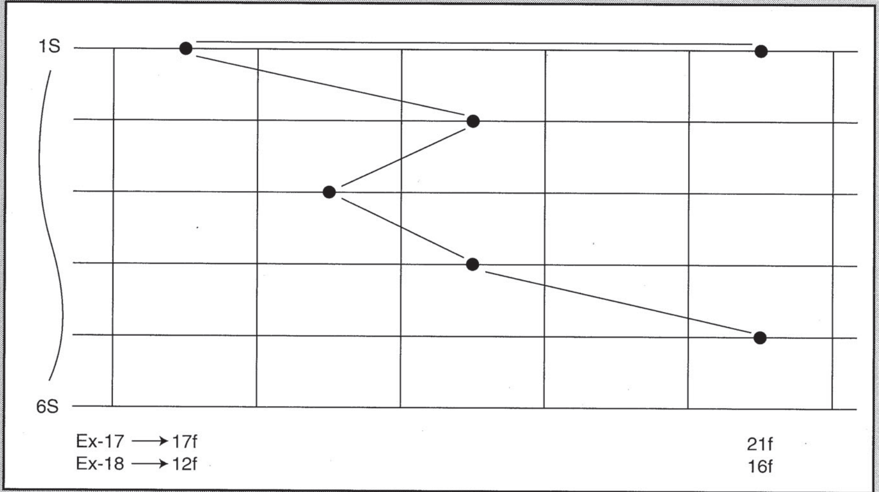
Ex-17 SWEEPING ARP. + TAP 最後を締めるF♯mスウィープ・アルペジオ

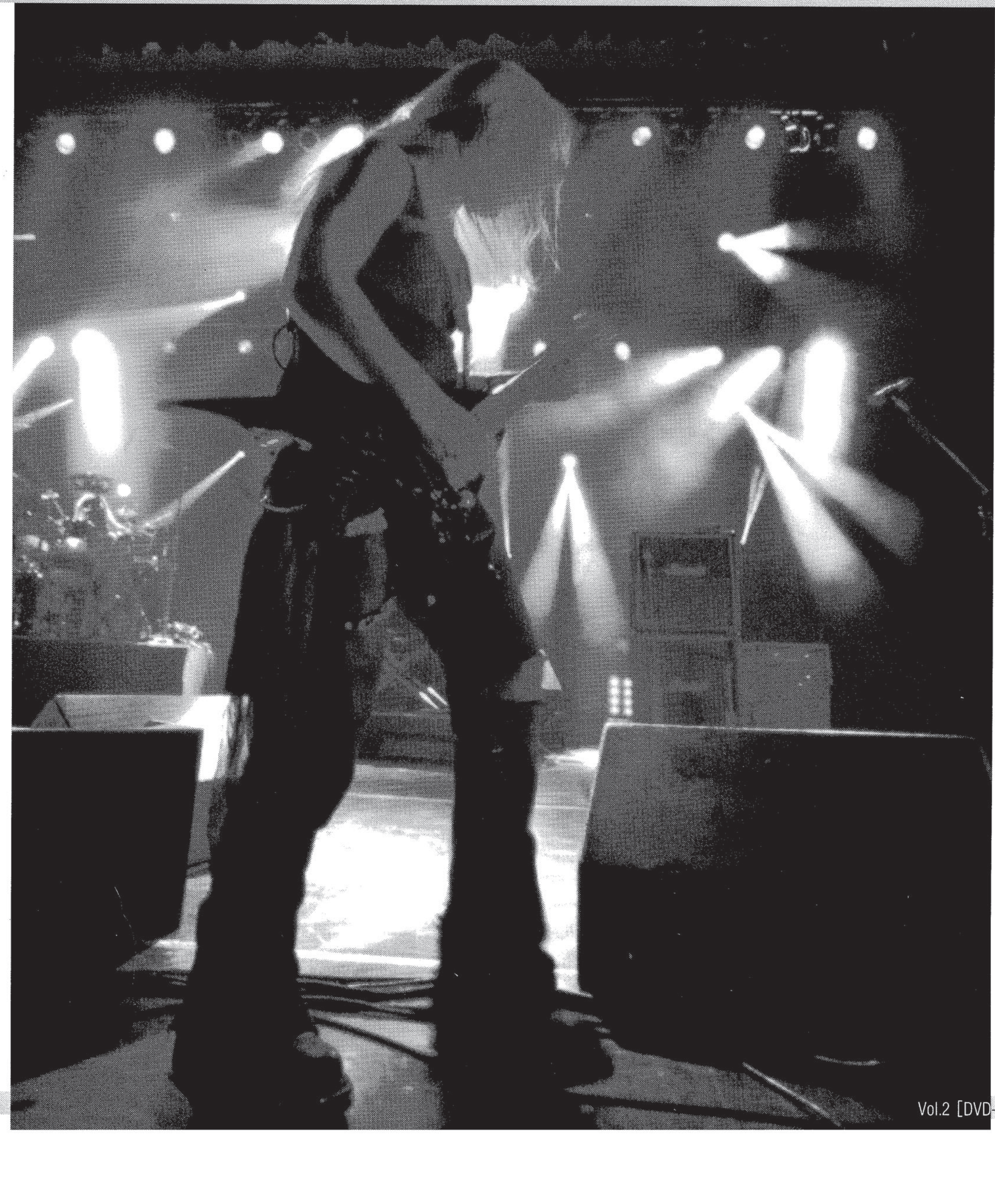
●3小節目最後のスウィープは、図eに示したスタンダードなタイプ。がしかし、ハイ・ポジションであるため難易度はレッド・ゾーン。1音1音を正確に押さえて行くフィンガリングがテーマになる。

Ex-18 SWEEPING ARP. + TAP マイナー・スウィープ2連発

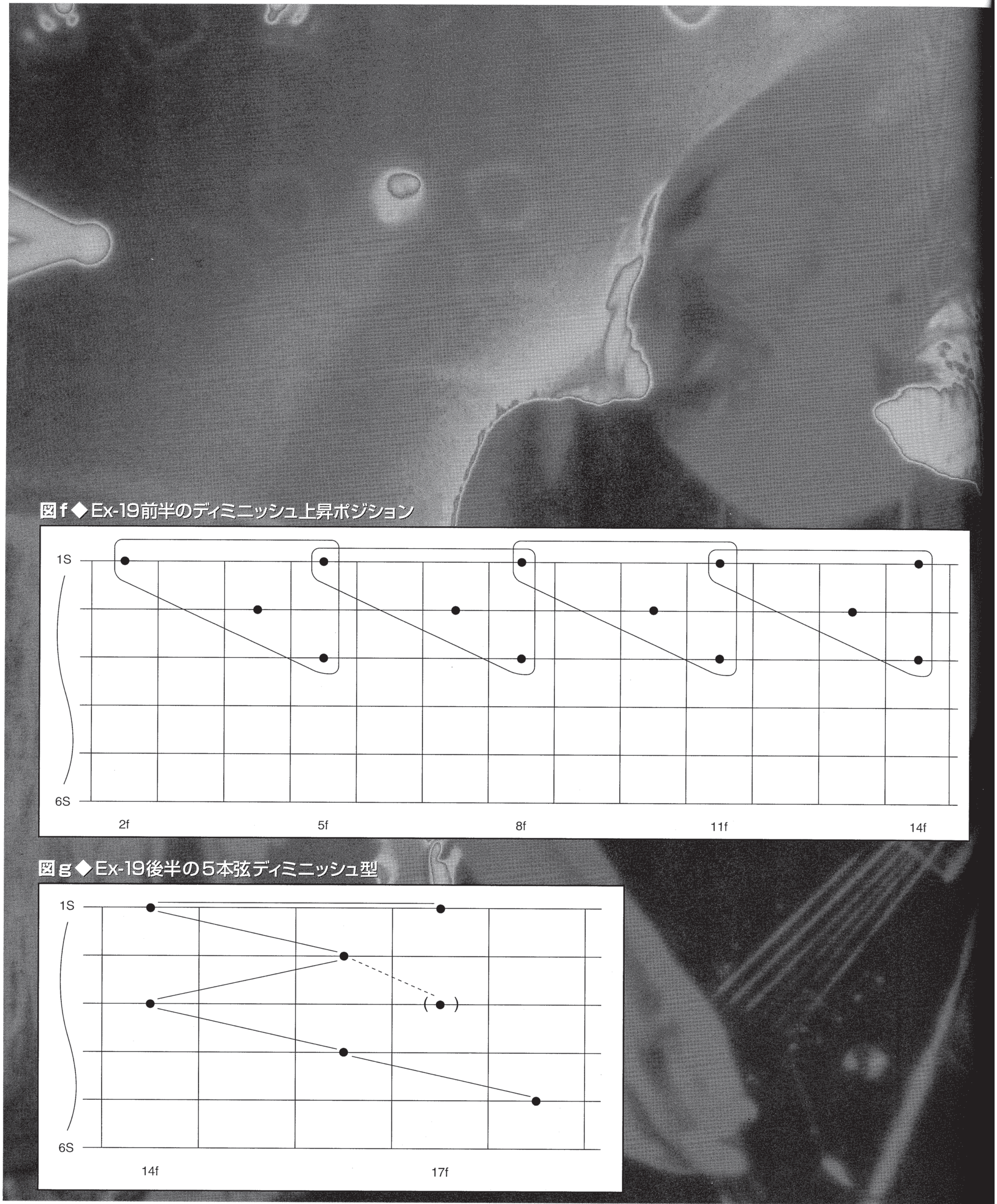
●フィンガリングの形はEx-17と同じ(図e)。2小節目最後は、1弦21fに右手中指でタッピングしている間に、左手薬指を1弦19fへ移動。そこに(1弦21f右手中指から)プリングしてベンド…となる。



図e◆5本弦 マイナー・スウィープの基本型（Ex-17 & Ex-18共通）





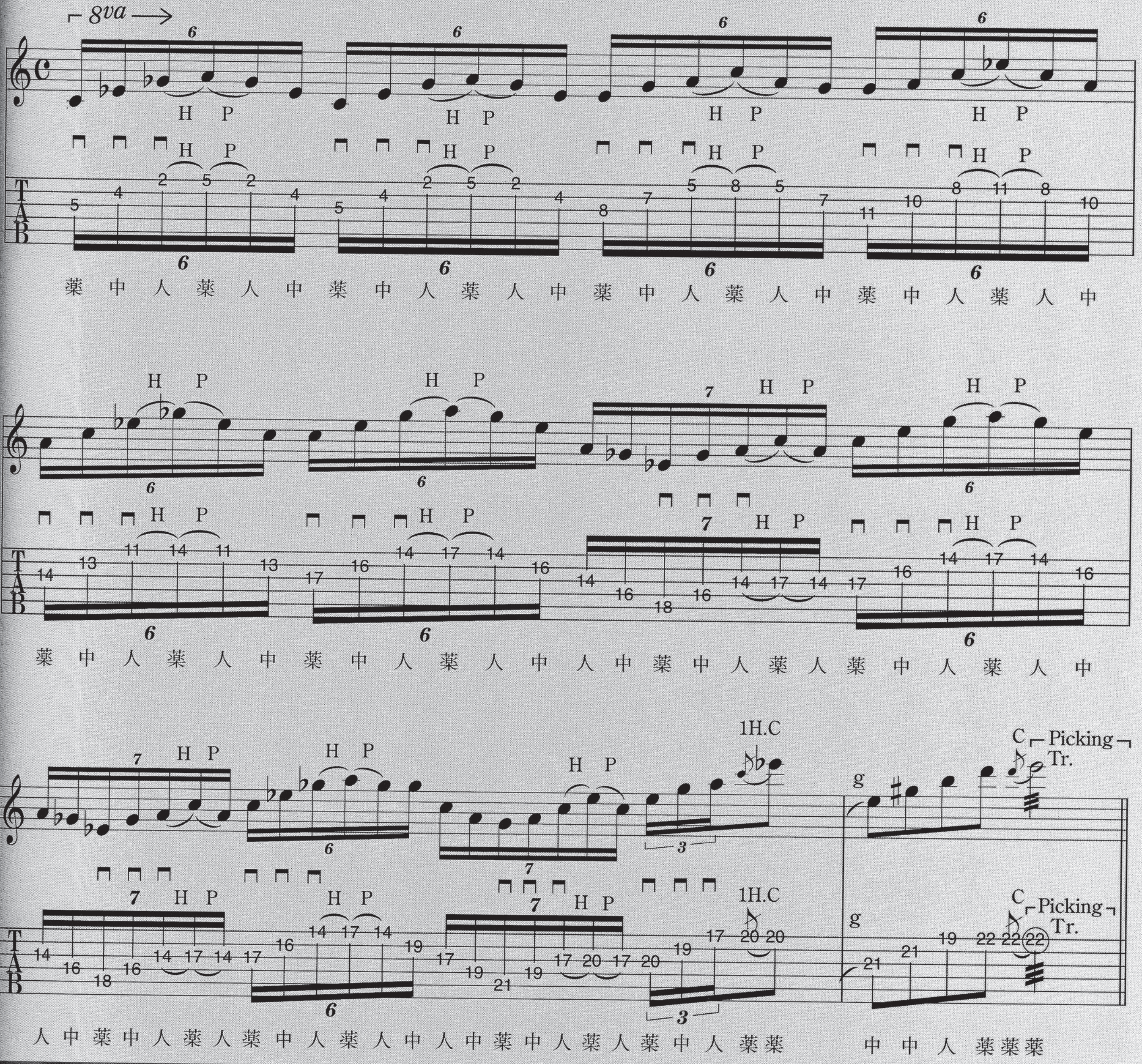
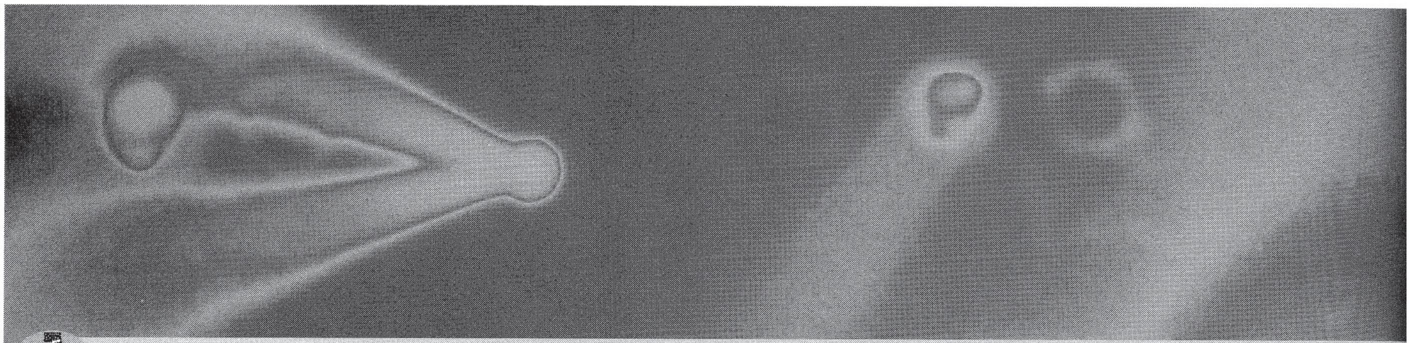


図f◆Ex-19前半のディミニッシュ上昇ポジション

図g◆Ex-19後半の5本弦ディミニッシュ型

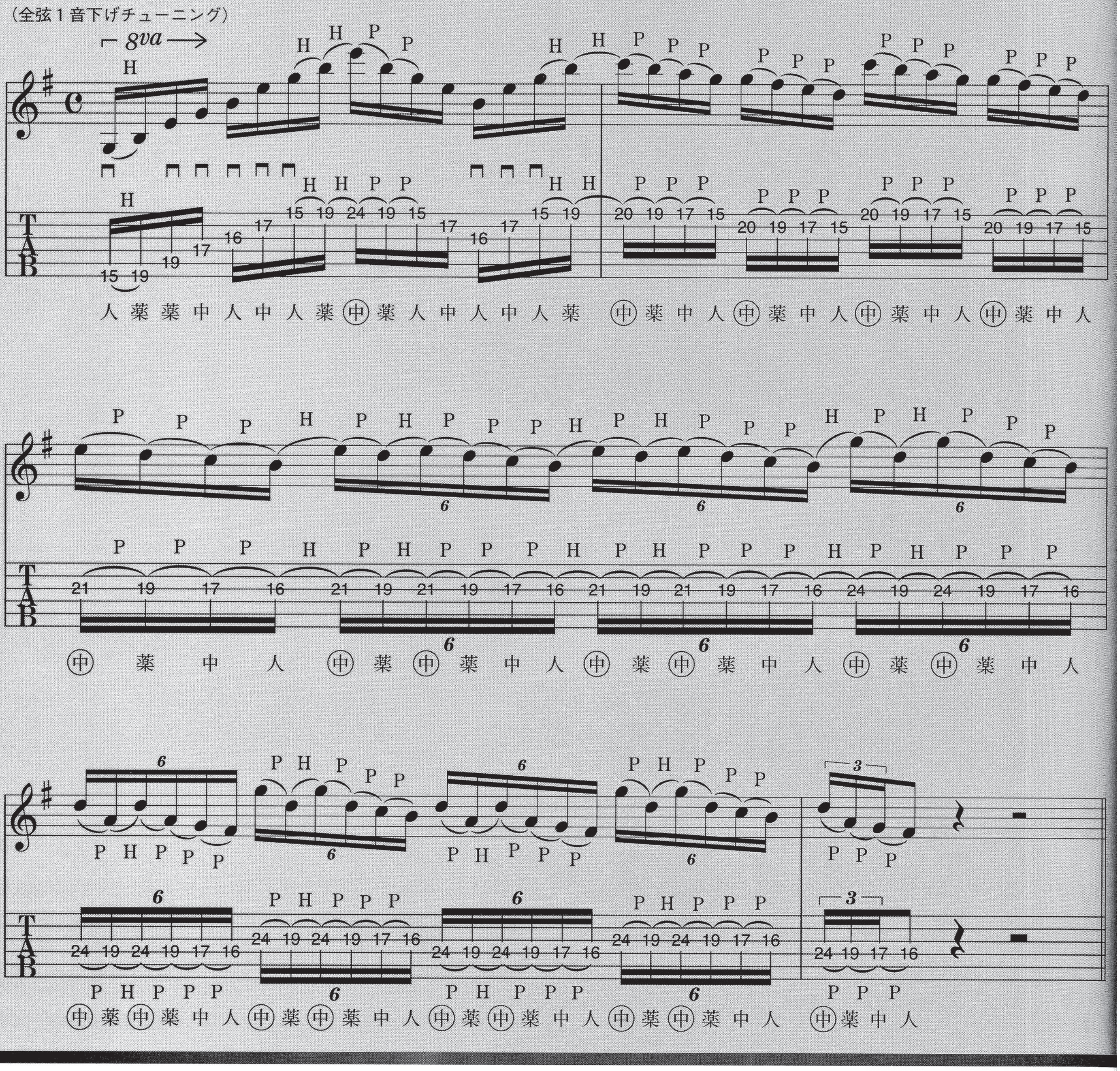
Ex-19 SWEEPING DIM-ARP. 最難関のディミニッシュ・スウィープ

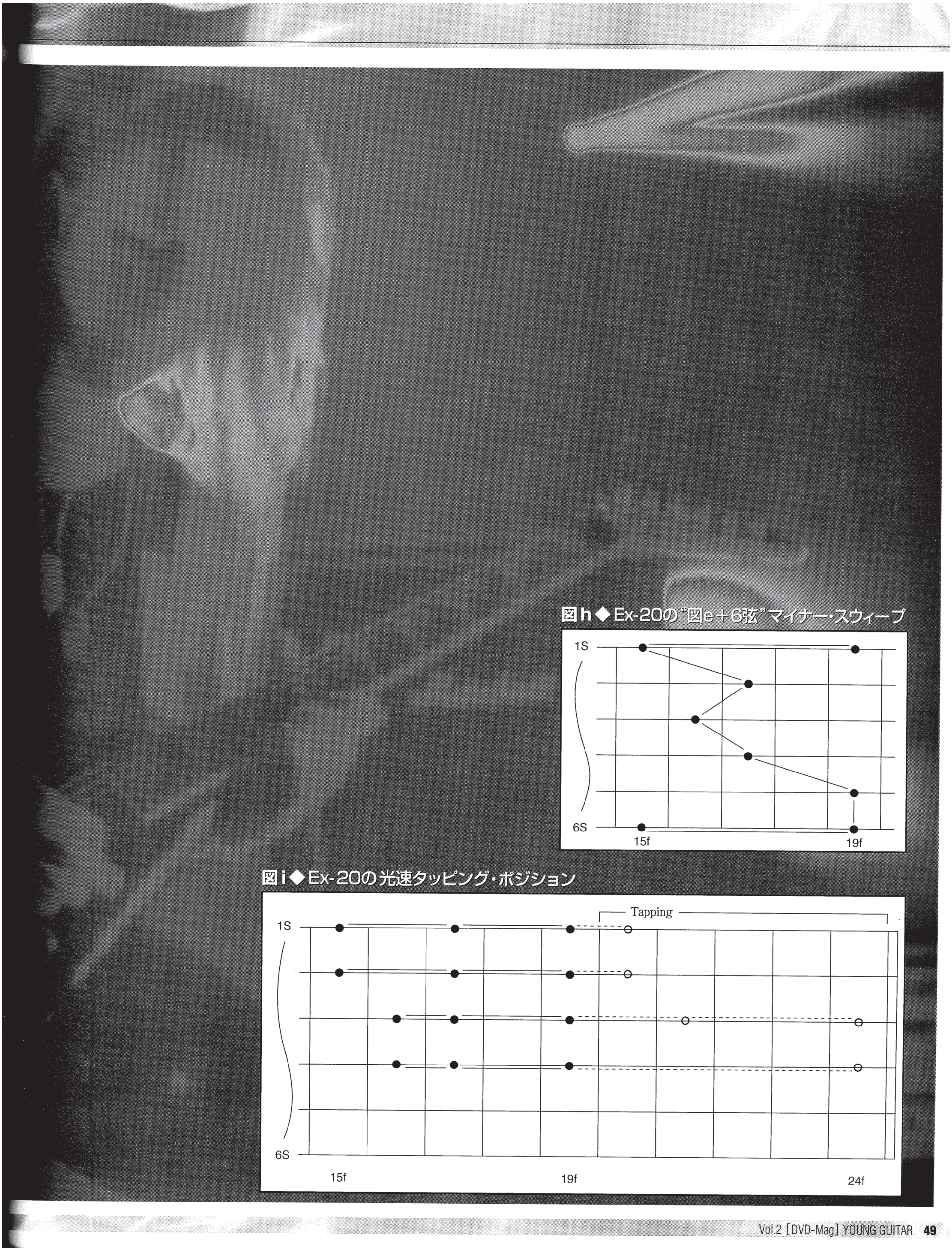
●高音弦側→低音弦側の際、アレキシはVスウィープを弾かずフィンガリングだけで音を出して行く。で、難しいのが3小節目2拍最後、2弦19fからの移動だ。ピッキングしても難しいが、無しだと一層左手が酷！

(全弦1音下げチューニング)



Ex-20 6-STRING ARP.→TAP 6本弦スウィープ～タッピング・プレイ

●最初のスウィープ（図h）は、図e（Ex-17&Ex-18）に6弦を加えたもの。図eの形がコナせれば、Ex-19ほど苦労はしない。それ以降のタッピングも、図iを頭に入れておけば、あとは速さに磨きを掛けるだけ!?



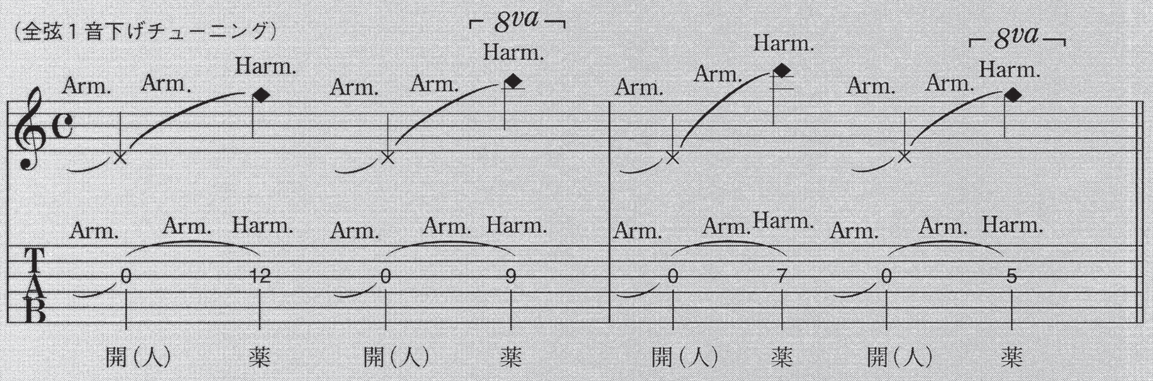


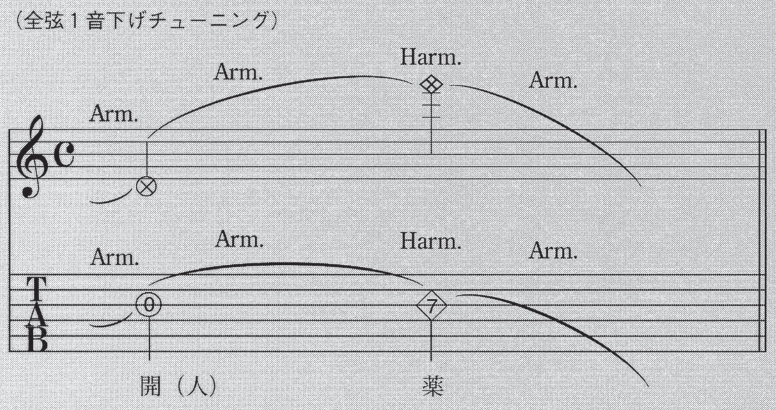
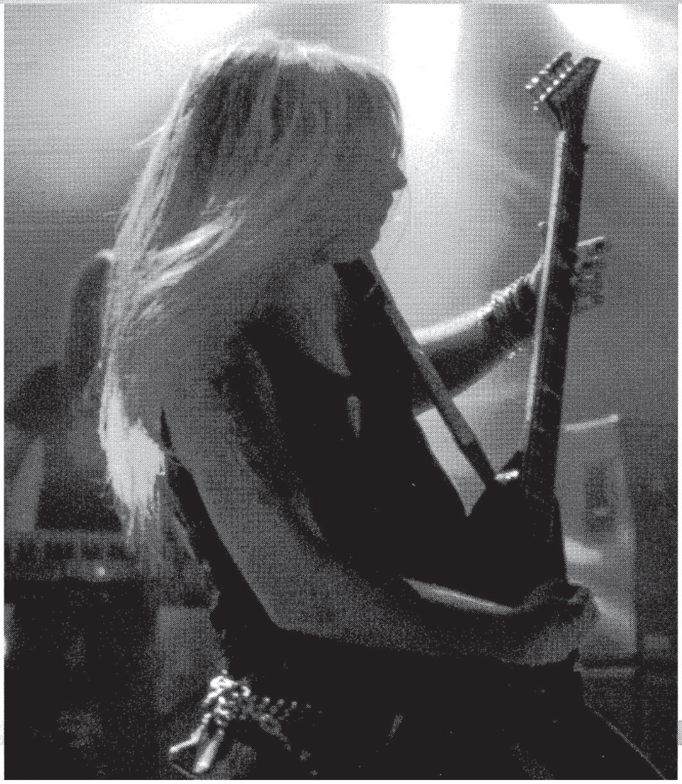
図h◆Ex-20の"図e＋6弦"マイナー・スウィープ

図i◆Ex-20の光速タッピング・ポジション

Ex-21 HARMONICS & ARM アームによるハーモニクス変化1

●アーム・ダウン状態の3弦開放を左手人差指でハジき、アーム・リターンさせながら、薬指でハーモニクス・ポイント(各フレット・バー真上)に触れる。人差指→薬指のスムーズな連携が鍵になる。



Ex-22 HARMONICS & ARM アームによるハーモニクス変化2

●Ex-21と同じだが、こちらはリターンから更にアーム・アップ。アーム・ダウン状態の3弦開放を人差指でハジく時、2弦～1弦まで鳴らしてしまわないように。指の先端で3弦だけ"弾く"術を身に付けたい。